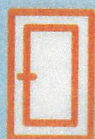
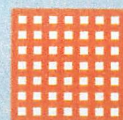


HOME CARE

HAND BOOK ホームケア ハンドブック [アパートメント]



お住まい
快適に安全に
美しく



号室

はじめに

このたびはミサワホームのアパートメントにご入居いただき、誠にありがとうございます。この建物は皆様の生活の場、憩いの場であると同時に、共同生活の場にもなっています。共同住宅での生活は戸建て住宅の生活形態と異なり、そこへお住まいになる皆様のルールやマナーがあります。この「ホームケアハンドブック(アパートメント用)」は、お互いが快適に生活するために守らなければならないルールやマナー、住まいの維持・管理についてまとめた手引きです。どうかご一読の上、いつでも使えるようにお手近な場所に置いて、ご活用くださるようお願いいたします。

- 設備機器についてはそれぞれの「取扱説明書」や「ご愛用のしおり」などをよく読んで正しくお使いください。
- この冊子に記載されている内容は、地域の行政指導や地域性、賃貸借契約の内容などにより、皆様のお住まいと一部異なる場合があります。
- 洗剤・漂白剤・器具類などは材質や目的に適したものを選び、それぞれの注意書きをよく読んでお使いください。



第1章 ご入居にあたって知っておきたいこと

- 4 1.ご入居前後に必要な手続き
- 7 2.荷物・家具の搬入と配置
- 8 3.ご入居にあたっての注意事項
- 9 4.賃貸借契約の更新・解約について
- 10 5.生活のマナー

第2章 住まいの日頃のお手入れ

内装材

- 17 フローリング・縁甲板／カーペット
- 18 畳／タタミフロア／クッションフロア／ビニールクロス／紙・布クロス・化粧合板など
- 19 化粧枠・化粧巾木／上り框・側板／床の間／白木

内部建具

- 19 内部ドア／障子／襖／浴室ドア
- 20 収納家具・吊戸棚／押入

キッチン

- 20 ステンレスシンク・トップ／人造大理石トップ／エムウッド配膳カウンター
- 21 水栓金具／排水口／ガスレンジ／IHクッキングヒーター／足元温風ヒーター／床下収納庫
- 22 レンジフード（換気扇）

浴室

- 23 浴槽・壁・床／天井／ミラー／排水口・グレーチング／ジェットバス

洗面所・トイレ

- 24 洗面台／排水口／便器・タンク／便座・洗浄暖房便座

設備

- 25 給湯器／電気温水器／浴室換気乾燥機・浴室換気暖房機／コンセント・スイッチプレート／分電盤（漏電遮断器）／照明器具
- 26 インターホン／床暖房

外部建具

- 26 玄関ドア／シャッター／サッシ全般／引違いサッシ
- 27 ジャロジー／両上げ下げサッシ／網戸

外回り

- 28 バルコニー／フラワーボックス／外階段・外廊下

第3章 防災・防犯対策

1.防災対策

- 30 〈防災施設〉
- 31 〈地震発生時〉
- 32 〈火災時〉〈台風時〉

33 2.防犯対策

第4章 健康・快適に暮らすために

1.空気の汚れについて

- 36 ホルムアルデヒド対策
一酸化炭素の対策
二酸化炭素と水蒸気の対策
その他の有害物質

2.湿気と結露について

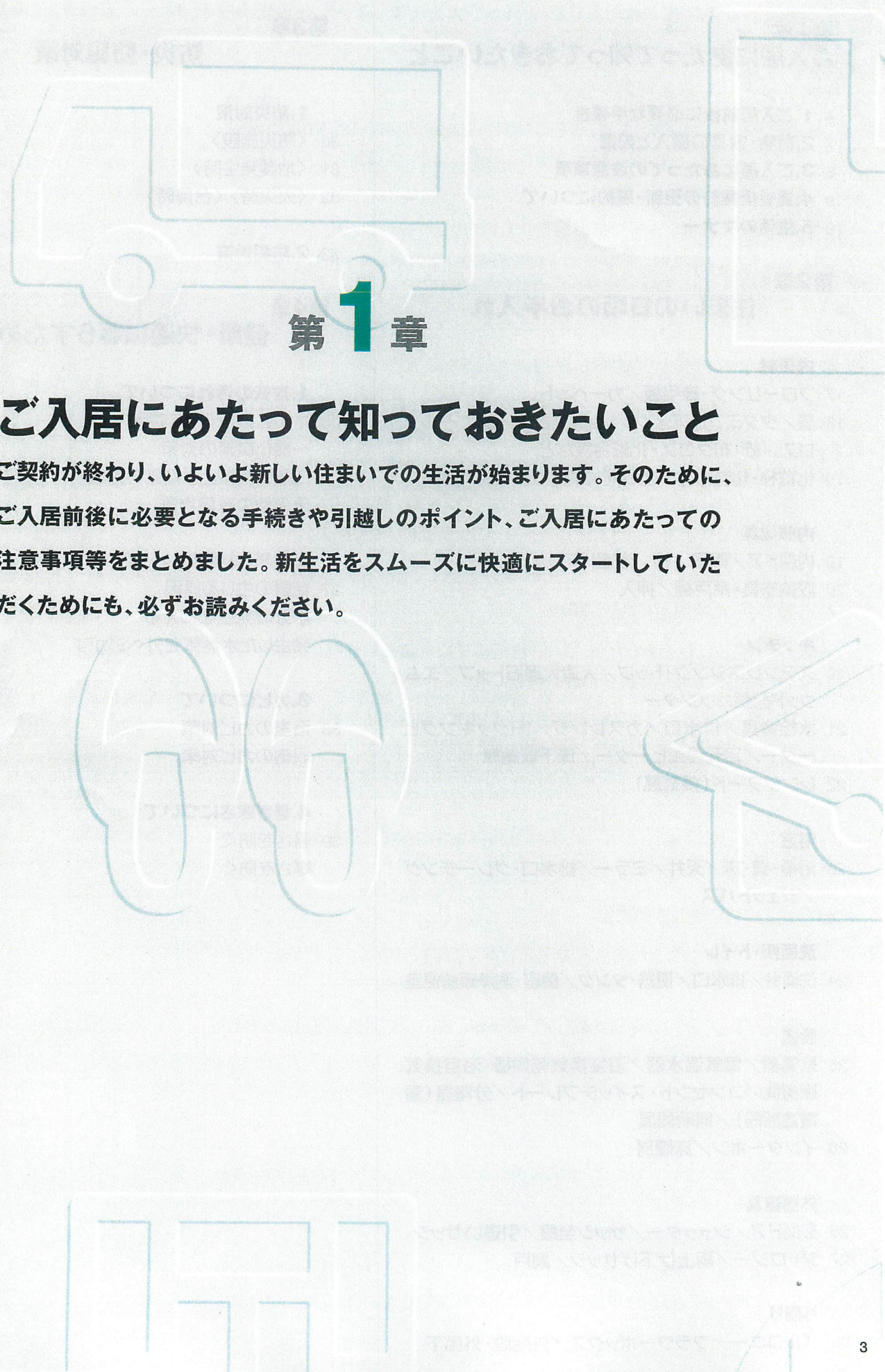
- 37 結露の生じる原因
水分の発生を抑える
発生した水蒸気を外へ逃がす

3.カビについて

- 38 浴室のカビ対策
収納のカビ対策

4.暑さ寒さについて

- 39 暑さを防ぐ
寒さを防ぐ



第1章

ご入居にあたって知っておきたいこと

ご契約が終わり、いよいよ新しい住まいでの生活が始まります。そのために、ご入居前後に必要となる手続きや引越しのポイント、ご入居にあたっての注意事項等をまとめました。新生活をスムーズに快適にスタートしていただくためにも、必ずお読みください。

1.ご入居前後に必要な手続き

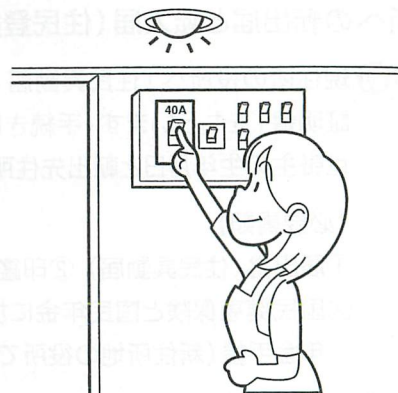
引越し前後は何かと気ぜわしいことが多く、又、色々な手続きが多く忘れがちですが、忘れてしまうと後でトラブルや余計な手間がかかったりで、かえって大変です。以下に一般的な手続きとその方法をまとめました。

※各自治体や事業体により、手続きや方法が異なることがありますので、詳細は担当窓口事前に確認しておきましょう。

●電気料金の精算と通電手続き

転居前 引越しが決まったら、事前に電力会社に今の住まいの電気使用停止と引越し先の使用開始連絡を。引越し当日、係員が料金の精算に来てくれます。

転居後 ご入居時にはすでに通電されています。ブレーカーのスイッチを上げて、備え付けのはがき（使用開始状）を郵送してください（地域によっては、手続きが異なる場合があります）。



●ガス料金の精算と開栓申し込み

転居前 引越し日が決まったら、早めにガス会社に移転のご連絡を。引越し当日、係員が料金の精算に来てくれます。開栓の申し込みは、ご入居の2～3日前にご入居先の受け持ち会社に連絡してください。

転居後 引越しの当日、係員がガスの種類とガス器具、換気設備などを確認し、必要な調整を行った上でメーターコックを開けてくれます。



●水道料金の精算と開栓手続き

転居前 引越しが決まったら、3～7日前までに水道局に移転のご連絡を。引越し当日、係員が料金の精算に来てくれます。

転居後 ご入居時にはすでに開栓されています。使用開始を転居先の水道局へ備え付けのはがき（使用開始状）か電話で連絡してください。水が出ない場合は、玄関前又はパイプシャフト内の水道メーター脇の元栓を開いてください。

※ご入居の際は、しばらく水を流してから水道をご使用ください。



しばらく水を流してから

●電話の移設・新設手続き

転居前 引越しが決まったら、できるだけ早くご契約の電話会社に移転の連絡をしてください（電話の移設・新設工事は予約制です）。

転居後 電話の取付け場所はあらかじめ決めておいてください。取付けの際は、立会いが必要です。



●NHKへの移転連絡

転居前 引越しが決まったら、受信料領収書に書いてあるNHKに移転の連絡をしてください。

※転居先に最近の領収書を持参しておいてください。

転居後 集金人が来たときに、最近の領収書をお見せください。新住所でのお支払い手続きが済むと「放送受信票」を貼ってくれます。

●役所への転出届と転入届（住民登録）

転居前 現住所の役所へ「住民異動届（転居届・転出届）」を提出して「転出証明書」をもらいます（手続きは本人又は世帯主。代理人の場合は、世帯主の生年月日と転出先住所の確認が必要となります）。

【必要書類】

- ①届出書（住民異動届）②印鑑（認め印）
- ③国民健康保険と国民年金に加入している方は、国民健康保険証と年金手帳（新住所地の役所で発行しなおすため）

転居後 転居してから14日以内に新住所地の役所へ「転出証明書」を持参し、「転入届」を提出しなければなりません（手続きは本人又は世帯主。代理人でも可）。

【必要書類】

- ①届出書（転入届）②旧住所地の「転出証明書」③印鑑（認め印）
- ④加入者は国民健康保険証と年金手帳

※「転居届」を提出しないと転校手続きなどができませんのでご注意ください。

※「転入届」と同時に住民票の交付手続きも忘れないようにしてください。



●印鑑登録

転居前 現住所地で印鑑登録をしている場合には、「転出届」を出し、印鑑登録カードを返却します。

転居後 新住所地の役所で住民登録後、印鑑登録の手続きをします。

【必要書類】

- ①登録する印鑑（印影が1辺8mmの正方形より大きく、25mmの正方形より小さいもので、変形しない材質であること）
- ②運転免許証、パスポートなどの官公庁発行の身分証明書

※原則として本人申請です。代理人の場合は役所備え付けの「代理人選任届」に本人が記入・捺印したものを持参してください。



●郵便局への移転連絡

転居前 現住所の所轄郵便局に転居届を出しておくと、郵便物は1年間新住所へ転送されます。郵便局にある「転居届（はがき）」を引越しの2～3日前までに投函しておいてください。

郵便局にある「転居届」

転 居 届 Change of Address Notice			
届 出 年 月 日 Date	平成 Heisei	年 Yr.	月 日 Mo. Day
新 住 所 (旧所) New Address			
郵便番号 (旧所) Postal Code		(不明な場合の記入は要しません。)	
TEL () ()			
旧 住 所 (旧所) Old Address			
郵便番号 (旧所) Postal Code			
TEL () ()			
世帯主名又は事業所名 Name of Householder/Company		電話番号 Phone No.	
転居者の氏名 Name of Persons Concerned			
転居の内容 Details			
a. 世帯の全部 Entire Household		b. 世帯の一部 Part of Household	
郵便物の転送の開始を希望する年月日 Date for Start of Mail Delivery at New Address		平成 年 月 日 Heisei Yr. Mo. Day	
届出人氏名印 Signature		印 Seal	

●自動車運転免許証・自動車の変更登録

【自動車運転免許証の住所変更手続き】

移転後、すみやかに新住所地を管轄する警察署で自動車運転免許証の住所変更手続きを行ってください(原則として本人申請)。

【必要書類】

①住民票 ②運転免許証 ③他の都道府県に移転した場合は写真が1枚必要

【車庫証明書の取得】

新住所地を管轄する警察署で、陸運事務所へ提出する車庫証明書を取ることが必要です。使用承諾証明書に駐車場所有者または管理会社の捺印をもらいます。(有料の場合あり)

【必要書類】

①自動車保管場所証明申請書 ②保管場所標章交付申請書
③保管場所使用承諾証明書または駐車場賃貸借契約書コピー

※上記の書類は警察署に用意されていますが、車の大きさ、車庫の大きさ、車庫の配置図なども記入しなければならないので、事前に入手しておく方がよいと思います。

【住所移転に伴う自動車の変更登録】

移転後15日以内に新住所地を管轄する陸運事務所へ、住所が移転したことに伴う自動車の変更登録をしなければなりません。

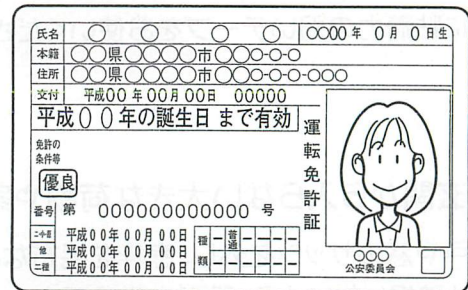
【必要書類】

①変更登録申請書 ②自動車車検証記入申請書 ③住民票
④自動車検査証 ⑤車庫証明書 ⑥自賠責保険証明書 ⑦自動車税申告書
⑧代理人の場合は「委任状」も必要

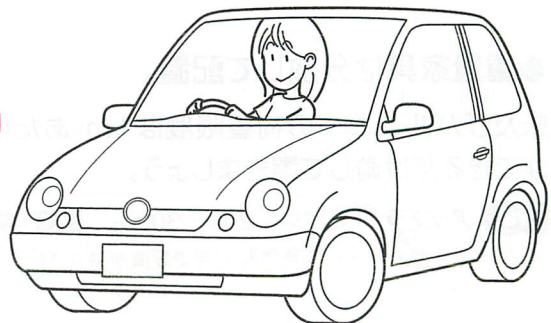
※①、②は陸運事務所販売しています。

●転居通知の発送

転居前 友人、知人、会社の上司や同僚などへ転居通知を発送します。そのためには、新しい電話番号等が決まったら事前にはがきの印刷を依頼しておく必要があります。



運転免許証の住所変更



車の変更登録

よし、できた

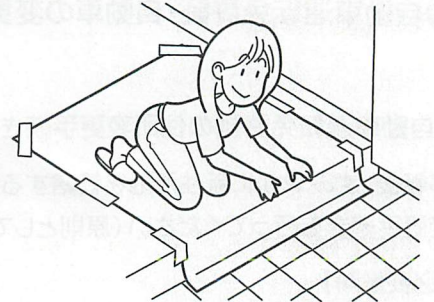


2. 荷物・家具の搬入と配置

上手な引っ越しのポイントは、まず大きな荷物や家具は1つ1つ「搬入のしかた」と「配置する場所」を事前に確認すること。そして、すべての荷物に「搬入する部屋の名前」を表書きしておくことです。

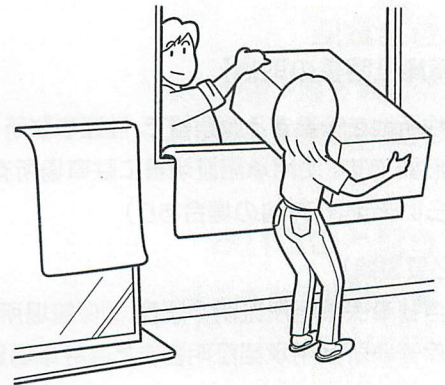
●大切な新居を傷めないように必ず保護カバーをしてから搬入。

玄関の上がりがまち、床、階段、壁のコーナーなどを重点的に、段ボールや古毛布などでカバー（養生）します。搬入後、仮止めテープなどをはがすときは、下地まではがさないよう気をつけてください。壁クロス部分は、特に粘着力の弱いテープをお使いください。



●玄関から入らない大きな荷物や家具は、窓から搬入。

網戸や窓のサッシを外し、窓枠を毛布などで保護します。取り外したサッシは破損しないよう、段ボールや毛布などをかませておきましょう。また荷物を引き上げるときは、手すりに重い荷重をかけないでください。変形やキズのつく恐れがあります。

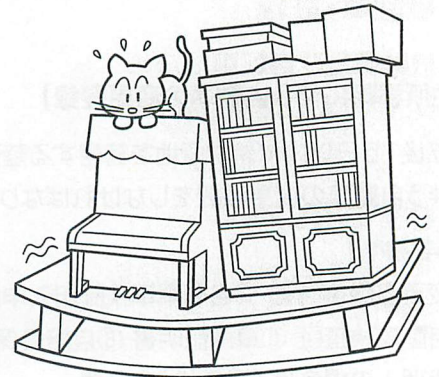


●重量家具は分散して配置。

床及びバルコニーの荷重限度は1㎡あたり180Kgです。重い家具類はできるだけ離して置きましょう。

参考 アップライトピアノ：200～300Kg 書籍（幅90cm）5段分の本：75～100Kg

※ピアノや大型金庫等は賃貸借契約等で設置が禁止されている場合があります。



●荷重限度以上の物を置くときは、受け板などで床を補強

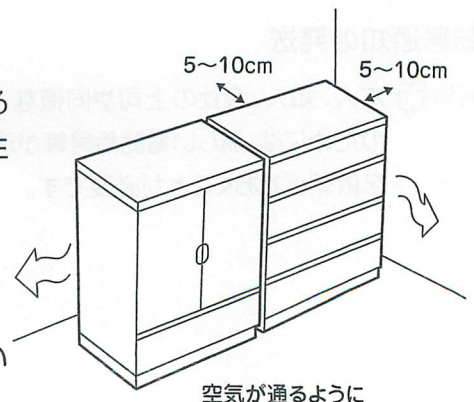
補強しておかないと、床がしなったり、戸の立て付けが悪くなるなど、長い間に構造の一部に悪影響を及ぼすことがあります。入居してから新たに重量物を設置するときは、管理会社または建物オーナーにご相談ください。

●家具は壁から少し離して設置。

家具と外部に面した壁との間に5～10cmのすき間をあけ、空気が通るようにします。ピッタリつけると、冬は結露が生じやすくなり、カビが発生しやすくなります。

●ドアや窓、エアコンとの位置関係をよく考えて家具を置く。

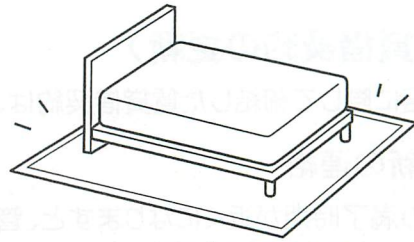
家具は、ドアや窓の開閉やエアコンの吹き出し気流のじゃまにならないように置きましょう。



3.ご入居にあたっての注意事項

①家具・書棚・ベッドなどを置く場合

床面の保護のために、敷物類を敷いた上に置くようにしてください。



ラグを敷くと傷つかない

②喫煙

室内で喫煙すると、ビニールクロスに落ちにくい煙草のヤニが付着しますので、注意してください。

③冷蔵庫

冷蔵庫を置く場所の裏面がビニールクロスの場合は、ビニールクロスが大変汚れますので、紙などを貼って少し離して冷蔵庫を置いてください。

壁やドアは釘打ち禁止

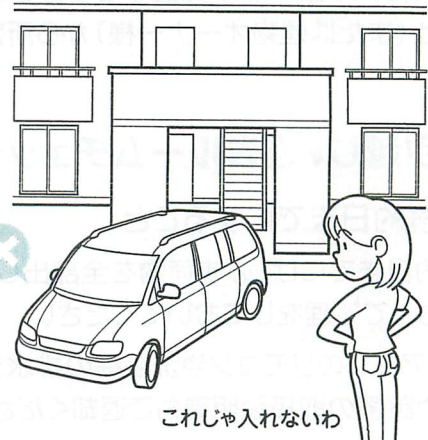


④壁への釘打ち

室内の壁に釘を打ち付けたり、接着剤・セロテープなどを使用しないでください。

⑤駐車・駐輪

自動車及び自転車は決められた場所に置いてください。道路上に置いたり、他の人の迷惑となる場所に置くことは禁止しています。



⑥ゴミ出し

ゴミは所定の場所に、決められた曜日の所定の時間に出すようにしてください。

⑦共用廊下

住戸前の廊下には、自転車などの私物、不要物やゴミなどを置かないようにしてください。

邪魔で通りにくいわ



⑧バルコニー

バルコニーは消防法では共用部分となり、緊急時の避難通路となりますので、避難を妨げるものは置かないでください。

※①～④は、退去時の原状回復費用負担の軽減に役立つことがあります。

※詳細については、賃貸借契約書の内容をよくご確認ください。

4.賃貸借契約の更新・解約について

〈賃貸借契約の更新〉

ご入居に際して締結した賃貸借契約は、一部例外を除き通常2年間で更新時期をむかえます。

●更新の連絡

契約の満了時期が近くなりますと、管理会社または建物オーナー様から「更新の通知」が郵送または連絡されます。もし連絡がない場合はお手数ですが、事前にお問い合わせください。

●更新の手続き

引き続きお住まいになるには、新しい建物賃貸借契約書（または更新同意書）などへの契約者ご自身の署名・捺印が必要となります。また火災保険などに加入の場合の更新手続きも同時に行われます。そのほか手続きに必要なもの、費用については、管理会社からの通知をご覧ください。

〈解約（退去の申し入れ）〉

●解約の連絡

万一、事情があって契約を解約する場合には、賃貸借契約書に記載の予告期間のうちにご連絡をください。（通常退去日より1ヶ月以上前の申し出が必要です。詳しくは、賃貸借契約書で必ず事前にご確認ください。遅れた場合には違約金が発生することもあります。）電話だけのご連絡はトラブルのもとになりやすいため、管理会社（または建物オーナー様）から所定の解約通知書の書式を入手、記入のうえ、余裕をもって提出しましょう。

〈引越し、退去ルームチェック〉

●解約日までにするこ

解約日までには、必ず荷物を全部出しておき清掃しておきましょう。退去の時に出了たゴミ、廃棄物は必ず責任をもって処理をしておいてください。

- ・エアコンのリモコンや洗濯機の排水ジョイントなど最初からあったものは必ず置いていきましょう。また機器や設備の取扱説明書もご返却ください。
- ・入居時に渡した鍵はスペアキー、コピーキーも必ずご返却ください。
- ・公共料金（電気、ガス、水道、NTTなど）などの精算を必ず行っておいてください。
- ・メールボックスにとり忘れの郵便物がないか確かめ、最寄の郵便局に転居届を提出すれば、1年間は新住所に転送されます。（P.5 ●郵便局への移転連絡 参照）
- ・ルームチェック後、解約精算・敷金の精算を郵送または連絡をします。

〈敷金の精算〉

●原状回復と精算

賃貸借契約書にありますように、退去時にはご使用していたお部屋を原状回復（入居した時の状態に戻すこと）する必要があります。この退去時修繕費用は入居時にお預かりした敷金と差し引きし、過多の場合はご返金、不足が生じた場合には別途支払い精算が必要となります。

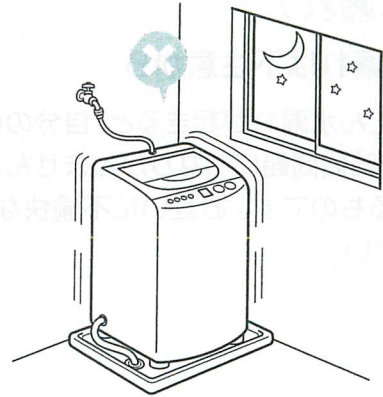
5.生活のマナー

集合住宅では、排水音やドアの開閉音などといった生活音を完全に防ぐことは困難です。案外自分では気にならない音が、他人には非常に不愉快な思いをさせることもあります。日常生活でのちょっとしたマナーを守って、階下やお隣とのトラブルがないようお互いの配慮が必要です。

〈生活音〉

●深夜の騒音

深夜の入浴や洗濯、ドアの開閉、共用廊下の通行、階段の利用には十分配慮してください。



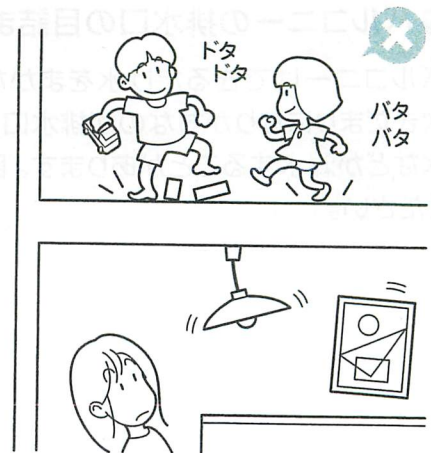
●ドアの開閉は静かに

玄関や室内のドアやふすまなどの開閉は“静かに丁寧に”を心掛けてください。音の防止だけでなく、故障から守ることもつながります。



●階下への音

部屋の中でお子様が飛び跳ねたりする音は階下とのトラブルのもとです。家具などの移動音も階下へ響きます。カーペットを敷くなど、音を和らげる工夫をしてください。



●ピアノやステレオなどの使用

許可をされていても、楽器の演奏はなるべく日中に窓を閉めて行ってください。ステレオやテレビなども、早朝や深夜は音量を絞るかヘッドホンを利用してください。又、ピアノやオーディオ類を置く場合には壁面から少し離して置いたり、厚手のカーペットやカーテンで音漏れや振動を最小限に抑えるようにしてください。



振動や音漏れは最小限に抑える

〈水漏れ〉

●水漏れは不注意から

いったん水漏れが起きると、自分の住まいだけでなく階下にも迷惑がおよび、賠償問題にもなりかねません。水漏れの原因のほとんどが不注意によるものです。お互いに不愉快な思いをしないよう、十分注意をしてください。



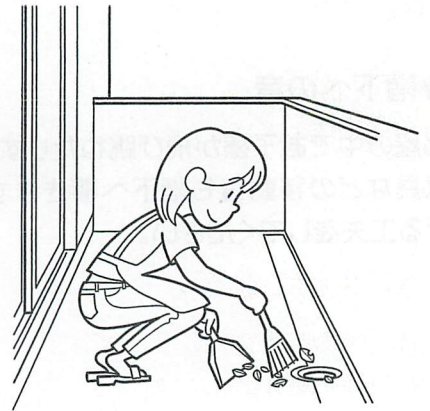
●水まき注意

居住部分で、完全に防水処理が施されているのは浴室だけとってください。玄関のたたき部分への水まきは、水漏れの原因になりますので避けてください。



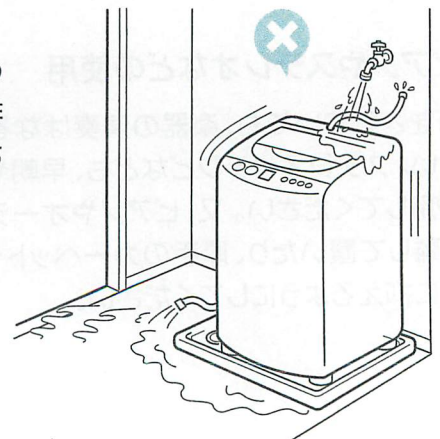
●バルコニーの排水口の目詰まり

バルコニーはできるだけ水をまかないようにしてください。又、ゴミの吹きだまりになりがちなのが排水口です。ゴミや木の葉などが詰まり、雨水などが漏水することがあります。目皿の周りなどは、こまめに掃除してください。



●洗濯機のホースの固定

全自動洗濯機の場合、給水栓に取り付けたホースが水圧で外れてしまうことがあります。ソケット式のアダプターなどで固定し、排水ホースも排水口にしっかりと固定されているかどうか確認し、使用後は水栓をきちんと閉めてください。又、外出中や睡眠中の洗濯は避けてください。



〈排水・汚水〉

●全体が迷惑する排水・污水管詰まり

排水管や污水管は、いったん詰まると雑排水や污水が他の部屋や住戸へ逆流したり、浄化槽が故障したりと、建物居住者全体に多大な迷惑をかけることになります。排水や污水を流すときは、十分注意をしてください。

●専用のトイレペーパーを

言うまでもないことですが、トイレでは水溶性のトイレペーパーを使用してください。ティッシュペーパーや生理用品などは、絶対に流さないでください。



●油は絶対に流さない

排水口に直接廃油を流すことも、排水管の詰まりの原因となります。



●浄化槽のある建物で使用する洗剤

浄化槽のある建物では、塩酸・クレゾールなどの薬品を流しますと、浄化槽の浄化機能が低下して悪臭などを発生させる原因となります。トイレの消臭剤などを使用する際も注意してください。



●ラバーカップの用意を

あやまって流してはいけないものを流した場合に備えて、ラバーカップ（スポイト）を用意しておく、詰まりぎみの時点で素早く手当ができます。ラバーカップは、台所・洗面用とトイレ用の2本あると便利です。



〈共用施設〉

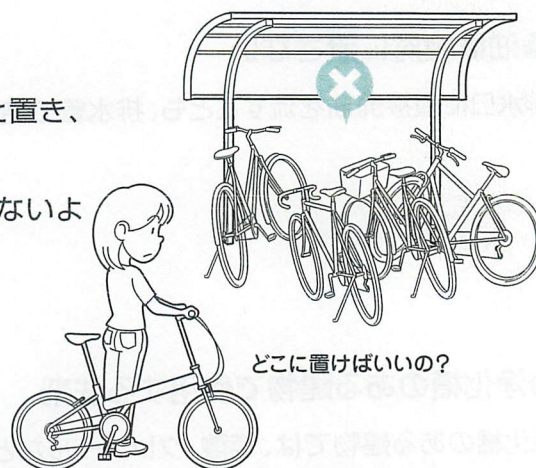
● 駐車場

- ①利用者は、駐車場使用契約書・駐車場運営規則・使用細則などを守って、決められた区画にきちんと駐車してください。
- ②敷地内の通路は通行用ですので、そこに駐車すると他の居住者の迷惑になります。お客様が訪れるような場合も、外来用駐車場がない場合は、車でのご来訪を控えてもらうようにしてください。
- ③車の出し入れ時は、お子様などが周囲や車の陰で遊んでいないか、十分注意してください。ちょっとした不注意が大きな事故につながることもあります。
- ④急発進・急ブレーキ・エンジンの空ぶかし・クラクションなどは、危険なうえ付近に迷惑です。早朝や夜間は特に細心の注意を払ってください。



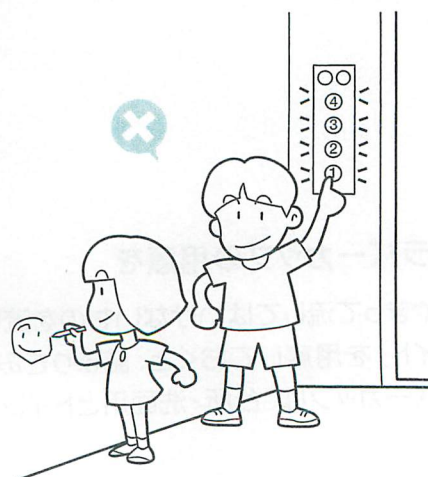
● 自転車置場

- ①自転車置場は乱雑になりがちです。決められた場所にきちんと置き、整理整頓を心掛けてください。又、鍵は必ずかけてください。
- ②不要になった自転車は、各自の責任できちんと処分し、放置しないようにしてください。



● エレベーター（設置建物のみ）

- ①お子様のエレベーター遊びが故障の原因となり、閉じこめられたりドアに手をはさまれたりすることがあります。こうした事故を防止するためにも、小さなお子様の一人乗りはできるだけ避けると同時に、日頃からエレベーター内でのマナーや正しい使い方を教えてください。又、エレベーターが途中で止まったときの非常用ボタンの位置や使用方法なども、あらかじめ教えておいてください。お子様のエレベーター遊びを見かけたら、すぐにやめるよう注意をしてください。
- ②キズを付けたり落書きをしたりすると、エレベーターの壁などは簡単に補修ができませんので、入居者全員が毎日いやな思いをしながら利用することになりますので、絶対にやめてください。
- ③停電や故障で途中で止まってしまったら、エレベーター内の非常ボタンを押し、電話かインターホンで故障を外部に通報し、救助を求めてください。自分で勝手に脱出しようとするとかえって危険です。



エレベーターでのらくがき、いたずらは禁止

- ④エレベーターの非常警報が鳴っていることに気付いた方は、管理会社かエレベーターサービス会社に連絡をお願いします。
- ⑤地震や火災が発生した場合は、停電などで途中でエレベーターが停止したり、煙に巻かれる恐れがありますので、絶対に使用しないでください。近所で火事が発生したときも停電になることがありますので、ご注意ください。

●ゴミ置場とゴミの出し方

- ①ゴミの出し方のルールを守らないと、清掃局が収集を中止してしまうこともありますので、決められた分別をして、その地域の収集日に合わせて、所定の時間に所定の場所へ出してください。又、敷地内にゴミ置場が設置されている場合は、定められた使い方を守り、清潔を保つよう心掛けてください。

- ②ゴミはその地域で指定されているゴミ袋に入れて、袋の口はガムテープでしっかりと密封するなどして出してください。

- ③資源ゴミのカンやビンは、一度水で洗浄してからゴミ置場に設置されている回収箱に入れてください。

- ④粗大ゴミは清掃局に電話での申し込み制になっていますので、以下の手順に従って収集してもらってください。

- ①各市町村清掃事務所粗大ゴミセンターに申し込んで次の内容を確認してください。

- ・ 収集予定日
- ・ 粗大ゴミ処理手数料
- ・ シールの種類と枚数
- ・ 近くの有料粗大ゴミ処理券取扱所の所在地

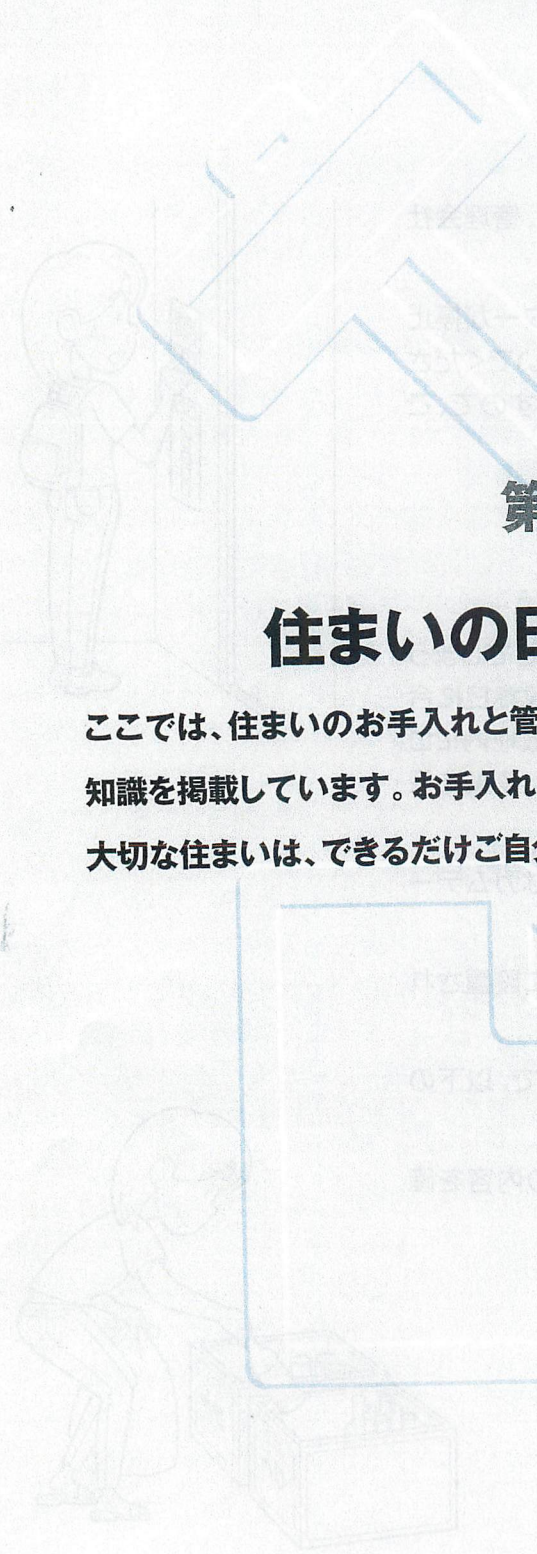
- ② 有料粗大ゴミ処理券取扱所でシールを購入する。

- ③ 粗大ゴミにシールを貼る。

- ④ 指定された収集日に収集しやすい場所に出す。

- ⑤平成13年4月から「家電リサイクル法」が実施されました。家電の中のエアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機の4品目は粗大ゴミとして収集しなくなりました。これらの4品目の引き取りを依頼するときは、お買い上げになった小売店や同じ種類の製品に買い替える小売店にご連絡ください。この場合、小売店には古い家電を引き取る義務があります。ゴミ置場には絶対に出さないでください。また、平成15年10月から「資源有効利用促進法」により、パソコンも同様の扱いとなります。





第2章

住まいの日頃のお手入れ

ここでは、住まいのお手入れと管理について、ぜひ知っておいてほしい基礎知識を掲載しています。お手入れの前に、ひと通りご一読ください。

大切な住まいは、できるだけご自分で維持し、管理していきましょう。

住まいの日頃のお手入れ

日頃からこまめにお手入れすることは、住まいの美しさを保てるだけでなく、設備などの寿命を伸ばすことにもつながり、経済的でもあります。内装材をはじめ、必要な箇所を網羅しましたので、ぜひご参考にしてください。

内装材17

フローリング・縁甲板
カーペット
畳
タタミフロア
クッションフロア
ビニールクロス
紙・布クロス・化粧合板など
化粧枠・化粧巾木
上り框・側板
床の間
白木

内部建具19

内部ドア
障子
襖
浴室ドア
収納家具・吊戸棚
押入

キッチン20

ステンレスシンク・トップ
人造大理石トップ
エムウッド配膳カウンター
水栓金具
排水口
ガスレンジ
IHクッキングヒーター
足元温風ヒーター
床下収納庫
レンジフード(換気扇)

浴室23

浴槽・壁・床
天井
ミラー
排水口・グレーチング
ジェットバス

洗面所・トイレ24

洗面台
排水口
便器・タンク
便座・洗浄暖房便座

設備25

給湯器
電気温水器
浴室換気乾燥機・浴室換気暖房機
コンセント・スイッチプレート
分電盤(漏電遮断器)
照明器具
インターホン
床暖房

外部建具26

玄関ドア
シャッター
サッシ全般
引違いサッシ
ジャロジー
両上げ下げサッシ
網戸

外回り28

バルコニー
フラワーボックス
外階段・外廊下

内装材

フローリング・縁甲板

- フローリングは水気を嫌います。水気がついたままにしておくと、ヒビ割れやふくれ等の原因になります。雨水や結露水が表面についたら、すぐに拭き取ってください。
- 日頃は、乾拭きを行ってください。濡れ雑巾をひんぱんにかけると、ヒビ割れや変色が生じることがあります。
- 汚れがひどい時は、住居用洗剤（弱アルカリ性）を薄めた液で拭き取ってから、乾拭きします。
- 油類をこぼした時は、すぐに乾いた布やキッチンペーパー、新聞紙などで拭き取ってください。その後、油分が残らないように中性洗剤で拭き、水拭きした後、乾拭きで仕上げます。
- シンナーなどの溶剤、塩素系・酸性洗剤を使わないでください。色落ちの原因になります。
- ペットの排泄物を長時間放置すると、シミや変色の原因になりますので、すぐに拭き取ってください。

フローリングにワックスをかける時

- 初めてワックスをかける前は、床用洗剤で汚れや油分を拭き取り、水拭き・乾拭きを行ってください。
- 半年に1回程度（歩行頻度によっては2ヶ月に1回）、フローリングワックスをかけましょう。床が湿った状態をかけるとムラ等の原因になりますので、乾いた状態で行ってください。
- ワックスを塗る際は、フローリングにワックス液を直接たらすと、継ぎ目にワックス液が入り込み、表面のふくれや、音鳴りの原因になります。布に含ませてから塗りましょう。
- ワックスがけの後には、部屋の換気を十分に行いましょう。
- ワックスの種類をかえる場合は、床用洗剤でワックス分を除去してから使用してください。
- WPC処理製品は耐水性が高められていますが、水などをこぼしたらすぐに乾拭きしてください。
- コルクフローリングにはコルク用ワックスをかけてください。経年により若干褐色に変化します。
- エムウッドフローリングには、ツヤ消しワックスをかけてください。

注意点

- 直射日光に長く当たるとヒビ割れや変色、隙間が生じることがあります。カーテンなどで遮るようにしましょう。
- ホットカーペットを直接敷かないようにしましょう。ワック

スのはがれ、面材の反りの原因になります。

- ファンヒーター等の温風を局所的にフローリングに当たらないようにしてください。収縮が発生し、隙間の原因になります。
- 室内が乾燥しすぎないようにご注意ください。隙間や表面のヒビ割れの原因になります。
- テーブルや椅子を引きずると表面を傷つけますのでご注意ください。キャスター付きの椅子や家具を移動する時にはマットを敷くようにしましょう。また、ゴム製の脚キャップを使用するとシミが付着することがあります。
※Cガードフロア等、種類によっては表面強度が高いものもあります。
- ピアノなどの重量物の脚部には、緩衝材や敷板を必ず敷いてください。移動の際には持ち上げるようにしてください。

ワックスの種類と用途

床用ワックス

フローリング床とクッションフロア用です。キズや汚れをガードし、滑り止め効果もあります。ただし、白木の床・水のかかる場所・屋外、油加工された床、油性ワックスを使用している床には使用できません。

床用ワックス&クリーナー

汚れ取りとワックスがけの1本2役。床全体に1度塗っておくと、汚れやキズ部分だけのお手入れにも効果的です。（部分的に塗り重ねても厚さを均一に保ちます）

固形ワックス

白木の床専用です。

油性の液体ワックス

ニスやラッカー、ウレタン塗料で仕上げた床用です。

水性液体ワックス

プラスチックタイルやビニールタイル、クッションフロア用です。

注意点

- ワックスの取扱説明書を必ずご確認ください。
- 住まいの洗剤や床ワックスなどには、化学物質を放散するものがあります。体質に合わない場合もありますので、ご注意ください。

カーペット

- ホコリや湿気はダニ発生の原因になります。カーペット

- 専用パーツを使って掃除機をかけたり、カーペットローラーを使いましょう。
- 全体が汚れてきたら、カーペットクリーナーか住居用洗剤を熱めのお湯で薄め、固く絞ったタオルなどで毛並みに沿って拭きます。

畳

- 畳は湿気を嫌います。天気の良い日は窓を明けて換気を心がけてください。
- 掃除機は畳表を傷めないよう、畳の目に沿ってやさしくかけてください。
- 拭く時は、目に沿って乾拭きしてください。汚れがひどい時は酢を5倍程度に薄めて拭き、乾拭きしてください。水拭きは変色や寿命を縮める原因になりますので控えましょう。
- 畳の縁(へり)の汚れは、ブラシに洗剤を付けて叩き、その後乾拭きします。
- 重いものを置く時はあてものを敷き、キャスター等を引かずらないようにしましょう。

畳を干す時

- ダニ等の発生を防ぐため、年に1~2回は干しましょう。干すときは必ず裏返して日光にあて、叩いてホコリを出します。畳を納める時はもとの位置に。位置が変わると隙間ができたり、納まらないことがあります。

タタミフロア

- 雑巾がけは固く絞って軽く拭き取るようにします。油污れには中性洗剤を少し含ませます。
- 縁(へり)の汚れ落としには消しゴム、油分を含んだ汚れは中性洗剤を少し含ませた布を、固く絞って拭き取ります。

注意点

- 畳表は和紙原料。針足15mm以上刺すことはできません。縁(へり)はプラスチックに布貼りしたもので、押しピン等はいりません。
- 縁(へり)にヒーター等の熱風を直接あてないでください。変形の原因になります。
- 重いものを置く時はあてものを敷き、キャスター等を引かずらないようにしましょう。

クッションフロア

- 水をよく絞った布でこまめに拭きましょう。
- 汚れがひどい時は、中性洗剤を布にしみ込ませて拭いた後、水拭きをして洗剤分が残らないよう取っておきます。

注意点

- ニス、シンナーなどの溶剤や溶剤系ワックスを使用すると、変質、変色の原因になるので使わないでください。
- 家具の脚部分の材質がゴム系の場合、化学反応を起こして床材が汚れ、貼り替えが必要となる場合があるので十分ご注意ください。

ビニールクロス

- 継ぎ目に逆らわないように水拭きしてください。継ぎ目から水分が入るとはがれやすくなります。
- 落ちにくい汚れは、住居用洗剤を含ませた布かブラシで拭き取りましょう。

注意点

- 溶剤(シンナー、ベンジンなど)を使うと色柄が消えることがあります。
- シールや接着テープを貼らないようにしましょう。はがした跡が汚くなり、表面の仕上げ材がはがれることがあります。

紙・布クロス・化粧合板など

- ときどきハタキや羽ボウキ、掃除機などのブラシでホコリやゴミを落としましょう。
- 手垢などの汚れは、食パンか消しゴムでこすると落とすことができます。

注意点

- 水拭きはしないでください。汚れが染みついたり、表面の保護膜がはがれ、ツヤをなくします。溶剤(シンナー、ベンジンなど)を使うと色柄が消えることがあります。
- シールや接着テープを貼らないようにしましょう。はがした跡が汚くなり、表面の仕上げ材がはがれることがあります。

化粧枠・化粧巾木

- やわらかい布で乾拭きしてください。
- 落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めた水を含ませた布で拭き、乾拭きして仕上げます。

注意点

- 溶剤（シンナー、ベンジンなど）を使うと変質・変色の原因になります。
- オレンジ（リモン）系洗剤の原液を使うと、表面のツヤが消えることがありますので、ご使用は避けてください。
- 火や熱いやかんなどを近づけたり置いたりしないでください。
- 暖房器具などの熱を直接あてないようにしてください。表面の仕上げ材がはがれることがあります。

上り框・側板

- ふだんは乾拭きで掃除しましょう。水拭きはできるだけしないでください。

床の間

- 床柱や床の間の地板はやわらかい布で乾拭きしてください。
- 水滴がついたり、水拭きをすると保護膜がはがれ、表面のツヤがなくなるのでご注意ください。

白木

- 乾拭きしてください。水拭きするとかえって汚れがしみ込んでしまいます。
- 汚れが目立つ場合は、白木用クリーナーで拭き取ってください。

内部建具

内部ドア

- やわらかい毛のブラシやハタキで、表面についたホコリを払い、乾拭きします。
- 月に1回程度、蝶番に防サビ潤滑剤をスプレーしましょう。

注意点

- 水拭きすると、表面材がはがれることがあります。
- ツヤ出しワックス類は「てかり」や「ムラ」の原因になることがあります。
- 暖房器具などの熱を直接あてないようにしてください。表面の仕上げ材がはがれることがあります。
- 接着剤をつけたり、接着テープなどを貼らないでください。表面を傷める原因になります。
- 溶剤（シンナー、ベンジンなど）を使うと変質・変色の原因になります。
- オレンジ（リモン）系洗剤の原液を使うと、表面のツヤが消えることがありますので、ご使用は避けてください。

障子

- ナイロン製ダスター（静電気細かいホコリを吸い付ける器具）でホコリを払ってください。
- こまめにホコリを落とすことが障子の白さを保つ秘訣です。放っておくと湿気を吸ってシミになります。

襖

- 障子と同様、こまめにホコリを落としましょう。
- 枠や引き手が汚れたら、住居用洗剤を使います。水拭きの後、乾拭きして仕上げます。
- 引き手まわりの手アカなどの汚れは、消しゴムで落とせます。

浴室ドア

- やわらかい布で乾拭きしてください。汚れが目立つ場合は住居用洗剤を使います。
- 樹脂製面材には火を近づけたり殺虫剤をかけないでください。変形や変色の原因になります。

注意点

- 折戸の場合、レールに異物があると開閉で塗装がはがれることがありますので、気を付けてください。

水栓金具

- 布などで乾拭きしましょう。
- メッキ部分は放っておくとサビが生じます。金属用クリーナーや練り歯磨きを布につけて磨きましょう。
- シャワーヘッドが水アカなどで目詰まりすると、水の出が悪くなったり、ムラになったりしますので、マチ針などで穴を突いて、こまめに汚れを取りましょう。
- 水アカやくもりが気になったら液体クリームクレンザーで磨き、洗剤分を洗い流してから乾拭きします。
- 吐水口キャップが詰まらないよう、中の網目のゴミをブラシで取り除いてください。

注意点

- 磨き粉、ナイロンタワシや酸性洗剤はメッキ面を侵しますので使用しないでください。
- 給湯側の金具は高温になりますのでご注意ください。

排水口

- 1～2ヶ月に1度の頻度で、排水パイプ洗浄剤を使いましょう。

注意点

- 塩素系めり防止剤入りの排水管クリーナーはステンレスのサビや変色の原因となります。
- 油脂分は必ずキッチンペーパーなどに吸収させてゴミとして捨てましょう。
- 排水管は塩ビの蛇腹ホースなので、熱湯などを流すと変形する恐れがあります。水と一緒に流すようにしましょう。

ガスレンジ

- コンロの使用後、多少熱のあるうちに汚れを拭き取ると簡単に落ちます。
- 頑固な汚れには住居用洗剤を使用します。フッ素コート仕上部分には中性洗剤を使用してください。
- バーナーの目詰まりは、バーナーキャップを外して、ワイヤーブラシやキリなどで穴の汚れを取り除いてください。

注意点

- アルミ箔製のしる受けは使用しないでください。異常燃焼やトッププレートの変色の原因になることがあります。

- スチールウールやタワシ、磨き粉、薬品などの使用は避けてください。
- 壁面に調理器具が接触していると、壁を焦がす原因になります。

IHクッキングヒーター

- お手入れは必ず電源スイッチを「切」にして、高温注意ランプが消えてから行ってください。
- トッププレートは固く絞った布でこまめに拭きましょう。
- 取れにくい汚れは、クリームクレンザーを付けた丸めたアルミ箔でこすり取りましょう。

足元温風ヒーター

- やわらかい布で乾拭きしてください。
- 月に1～2回程度、フィルターを外し、ホコリを掃除機で吸い取ってください。

注意点

- 吹き出し口や吸気口をふさぐと、温度が上昇し自動的にストップします。足元マットなどが被らないようにしてください。
- 前面カバーにゴミやほこりが溜まると、作動不良の原因になります。

床下収納庫

- 中性洗剤液を固く絞った布で拭き取り、水拭きと乾拭きをしてください。
- お子様が入って遊ぶと危険です。お手入れ後は必ず元通りに閉めておきましょう。

収納家具・吊戸棚

- やわらかい布で乾拭きします。汚れが目立つ場合は家具用ワックス(クリーナー)で拭いた後、乾拭きします。

注意点

- 水拭きや水気の付着によって表面材が反ったり、はがれる恐れがあるのでご注意ください。
- 溶剤(シンナー、ベンジンなど)を使うと変質・変色の原因になります。

押入

- 晴れて乾燥した日には、襖を開けて通気してください。
- 物を詰め込みすぎると、通気が悪くなり湿気がこもって、カビ等が発生する原因になりますので注意しましょう。

建具 ひと言アドバイス

ご入居後すぐの建具の反りは・・・

ご入居が秋から冬の場合、部屋間の温度差や湿度差でドアや襖などの建具に反りが生じることがあります。1年を過ぎると自然に落ち着くので、開閉に支障がなければ、そのままご使用ください。

すりガラスの掃除は・・・

すりガラスの表面には無数の凹凸があるため、布では拭き取れない汚れや洗剤分が溜まります。汚れがうまく取れない場合は、ガラス用洗剤を吹き付けて歯ブラシなどでこすった後、水拭きと乾拭きをしてください。

キッチン

ステンレスシンク・トップ

- 汚れが落ちにくい時やもらいサビが付いた時は、スポンジに液体クリームクレンザーを含ませ、筋目(ヘアライン)に沿って磨きます。洗剤分を残さないように水洗いした後、乾いた布で水気を拭き取ってください。

注意点

- 熱い鍋を直に置くと焦げ跡がつくことがあります。鍋敷きを利用してください。
- 塩分や油脂分などの汚れを放置すると、もらいサビの原因になります。すぐに拭き取りましょう。
- 鉄製のものを長時間置きっぱなしにすると、もらいサビの原因になります。
- スチールウールやタワシ、磨き粉等を使うとキズや変色の原因となります。

人造大理石トップ

- スポンジに中性洗剤をつけて拭いた後、乾いた布で水気を良く拭き取ります。
- 汚れが落ちにくい時は、液体クリームクレンザーをお使いください。表面を磨いても問題ありません。

注意点

- 塩ビ系物質、ゴム製品を長時間放置したり、熱い鍋を直に置くと、変色の恐れがあります。鍋敷きをお使いください。

エムウッド配膳カウンター

- 汚れた場合は中性洗剤をお使いください。溶剤(シンナー、ベンジンなど)を使うと、変質・変色の原因になります。
- 火、やかんなど熱いものを近づけたり、置いたりしないでください。また、60℃以上のお湯で変形することがありますのでご注意ください。
- 変色の原因となりますので、ぬれふきんの上に熱い急須などを長時間放置しないでください。

レンジフード(換気扇)

- お手入れの際は必ず電源を切ってください。レンジフード内部のお手入れの際は、プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
- 通常の汚れはペーパータオルや布巾で拭き取ってください。汚れたらすぐに拭き取るのが、きれいに長持ちさせる基本です。フィルター表面を傷つけると剥がれの原因になりますので、取り扱いには注意しましょう。
- 本体やフィルターは月に1~2回、レンジフード内部は3ヶ月に1回程度は掃除しましょう。その際、部品で手を切る恐れがあるので、厚手の手袋を使用しましょう。
- フィルターの掃除には中性洗剤を使います。水またはぬるま湯に溶かしたものに、20分から30分浸しておきます。スポンジや使い古しの歯ブラシなど、柔らかい素材で洗ってください。水で汚れを洗い流してから、自然乾燥させてください。

フィルター、フードの掃除

- 1 シンクの排水口に栓をして、浸け込み用のポリ袋をセットします。(シンクに汚れを付けないため)
- 2 40~50℃の熱めのお湯に、フッ素コートOKの中性洗剤を入れます。外した部品を汚れのひどい面を下にして浸け込みます。
汚れのひどい面を下にして
- 3 本体やフードは、洗剤をつけたペーパータオルで湿布して、汚れをゆるませてからお湯で拭き取ります。
- 4 本体の手の届きにくい部分やフードの溝にたまった汚れは割り箸などにボロキレを巻き付けてこすり落します。
- 5 浸けおき洗いの部品の汚れを落したら、シャワーなどで手早くお湯すすぎします。水気を拭き、新聞紙の上などでよく乾かしてから元の通りに取り付けます。

注意点

- レンジフードの換気扇を回さずにガスコンロを使用すると熱がフード内にこもり、フィルター表面を劣化させる恐れがあります。ガス器具のみの空焚きは絶対におやめください。
- フィルターの掃除には中性洗剤で、フッ素コートOKの表示がある洗剤をお使いください。アルカリ性、酸性の洗剤は使用しないでください。(中性洗剤でも『電気製品に使用しないでください』等の記載のある洗剤は使用しないでください。)
- 硬いたワシで表面をキズつけたり、汚れを放置しておくと表面のフッ素コーティングがはがれる恐れがあります。スポンジか、汚れのひどいときは使い古しの柔らかい歯ブラシなどでこすってください。
- フィルターに市販の紙フィルターをかぶせると、ファンの吸込能力を損なう恐れがあります。また、炎が立つ原因にもなり危険です。
- モーター部分を濡らすと故障の原因になります。

換気扇(シロッコファンタイプ)の分解と掃除

- 1 ツメ部を押しながら引き抜き、コネクターを外します。
①ツメ部を押す
②引き抜く
コネクター
- 2 固定金具を上へスライドさせ、前板を手前に引いて外します。スロットフィルターのとってを持って上にあげ、手前に引いて外します。
前板
本体
固定金具
とって
- 3 取付けネジ3か所を手で緩めてベルマウスを外します。ファンをかるく手で押さえ、ツマミを「ユルム」の方向に回して外した後、シロッコファンを取り出します。
ベルマウス
取付けネジ
ゆるむ
しめる
- 4 スロットフィルターは1ヶ月に1回程度、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸したのち、金属以外のタワシ等で洗ってください。汚れを落としたあと、洗剤が残らないように水洗いし、水気をとってから取り付けます。
- 5 ファンは1年に1回程度、本体から外して、中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて洗ってください。汚れを落としたあと、洗剤が残らないように水洗いし、水気をとってから取り付けてください。

浴室

浴槽・壁・床

- 汚れの元は、石鹸カスや湯あか、水に含まれる鉄分などです。乾燥すると落ちにくくなるので、濡れているうちに洗いましょう。
- スポンジに中性洗剤をつけてこまめに洗ってください。
- 落ちにくい汚れは、浴室用洗剤をしみ込ませたペーパータオルを5～10分かぶせた後、スポンジでこすってください。汚れが落ちたら、よく水洗いして洗剤分を洗い流します。

注意点

- 入浴剤は注意書きをよく読んでからご使用ください。FRPや人造大理石の浴槽に多量に入れると、表面の光沢をなくすることがあります。
- 塩素系漂白剤を使用しないでください。ヘアピン、かみそりなど金属を置きっぱなしにすると、鉄サビがうつります。
- タワシやクレンザーなどでこすると表面がキズつき、汚れがしみ込んでとれにくくなります。
- 床や壁に穴をあけないでください。構造体に水がしみ込む恐れがあります。

天井

- シャワーでこまめに水洗いしてください。
- 半年に1度は、デッキブラシでこするか、浴室用洗剤液を布につけて軽くこすります。その後よく水洗いし、できれば乾拭きしてください。

注意点

- 酸、アルカリなどの溶剤は、表面の塗膜をはがしたり、変質・変色の原因になります。

ミラー

- やわらかい布で水分を拭き取ります。
- 白くこびりつく汚れは“カルシウム石けん”と呼ばれるもので、軽いうちなら浴室用洗剤（中性）で落とせます。
- それでも落ちない場合は、研磨剤入り洗剤でこすり落とし、水拭きと乾拭きで仕上げてください。

注意点

- 酸性やアルカリ性の強い洗剤を使用すると、裏面の塗料が腐食し、黒いシミが発生することがあります。

排水口・グレーチング

- 週に1～2回は排水口のフタを外し、ヘアキャッチャー等の汚れを落としてください。
- 排水口は2～3ヶ月に1回、排水パイプ洗浄剤を流して掃除しましょう。

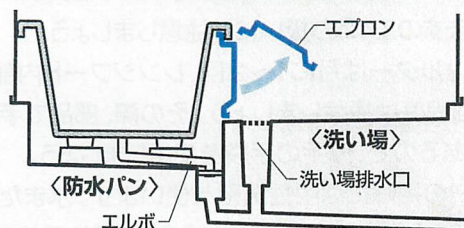
注意点

- 排水トラップ内の封水が切れると、悪臭や害虫の原因になることがあります。

浴槽下（2重パン方式の場合）

- 月に1回程度、浴槽下の防水パンの汚れを落としましょう。

※エプロンの外し方は、取扱説明書をご覧ください。

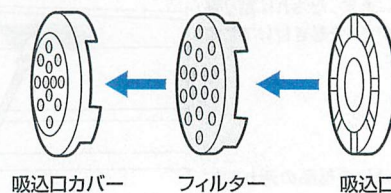


浴槽下（2重パン方式の場合）の掃除

- 1 まずエプロンを外します。（上図）排水口のエルボとヘアキャッチを外し、ヘアキャッチにビニール袋をかぶせて蓋をするか、ゴム板・プラスチック板（下敷きのようなもの）をはめ込みます。
- 2 洗面器1杯のぬるま湯に風呂釜用洗浄剤（1穴用）1袋を溶かし、浴槽下に注ぎ込みます。5～6cmの深さになるくらいお湯を溜めたら、そのまま一晩（6～8時間）程おきます。
- 3 蓋を外して排水し、シャワーで汚れを洗い流してください。ヘアキャッチとエルボを元の状態に戻して完了です。

ジェットバス

- 週に1回程度、吸水口のカバーを外し、中のフィルターをゴミを取り除き、水洗いしてください。その際は、必ず電源を切り、浴槽の水を排水してから行ってください。）



注意点

- 吸水口カバーやフィルターを外したまま運転しないでください。

洗面所・トイレ

洗面台

- 石鹸カス、手垢などの軽い汚れは、浴室用洗剤やクリームクレンザーをスポンジにつけて軽くこすります。
- 落ちにくい黒ずみはクリームクレンザーで磨いて落とします。洗剤分をよく洗い流した後、乾いた布で拭き取ります。
- 陶器部分のしつこい輪じみや黒ずみを落とすには、耐水性サンドペーパー1200～1500番に石鹸水をつけてこすり、あとは水洗いしてください。排水口の金具を傷つけないよう注意してください。

注意点

- 扉やキャビネット等の木部には水気を残さないようにしましょう。
- 硬いタワシやクレンザーは表面を傷つけるので使わないでください。
- 洗面台下のキャビネットは湿気がこもりカビが発生しやすい場所です。ときどき中身を出して、拭き掃除と通気を心がけましょう。

排水口

- 排水口に髪の毛やゴミが引っ掛かっていたらこまめに取り除きましょう。
- 月に1度は排水パイプ洗浄剤を使って掃除してください。
- 洗濯機の排水口のお手入れは、P.23の浴室の排水口と同様に行ってください。
- メッキが変色しやすい場合は、月1回はカーワックスやミシン油等を含ませた柔らかい布で拭いてください。メッキ表面に油膜が形成され、腐食性の高い水や薬品から表面を保護します。
- 万一、薬品（塩素、酸素系）が付着した場合はよく水洗いをしていただき、同様に、カーワックスやミシン油等で拭いてください。

注意点

- 洗剤によるつけ置き洗いや長時間の水溜は、メッキ層に悪影響を与えることがありますので、ご注意ください。

便器・タンク

- 便器の汚れは、柄付きスポンジブラシなどでこまめに洗い落としましょう。放置するとカルシウムが沈着したり、尿酸による黄ばみ、バクテリアによるピンク色の汚れが発生します。
- タンクや便器の表面に水滴がついている時は、こまめに拭き取りましょう。床との間についた水滴は、床材の汚れやシミの原因になります。
- 洗剤は中性洗剤をご使用ください。
- 年に1回程度、ボルトのゆるみをチェックしましょう。

注意点

- 便器内と手洗鉢内には防汚加工が施されています。下記の洗剤と用具は防汚性能を低下させますので、使用しないでください。

便器のお手入れに使ってはいけない洗剤・用具

洗剤 ⚡ 酸性洗剤、アルカリ性洗剤、研磨剤入り洗剤、業務用の強酸性・強アルカリ性洗剤

用具 ⚡ 金属ブラシ、研磨剤入りのナイロントワシ、紙やすり

便座・洗浄暖房便座

- 便座やフタ、タンクなどは乾いた布か水をよく絞った布で拭いてください。
- 洗浄ノズルは引き出して、柔らかい布で水拭きしてください。汚れがひどい時は薄めた中性洗剤を含ませた布で拭き取り、水拭きして仕上げてください。

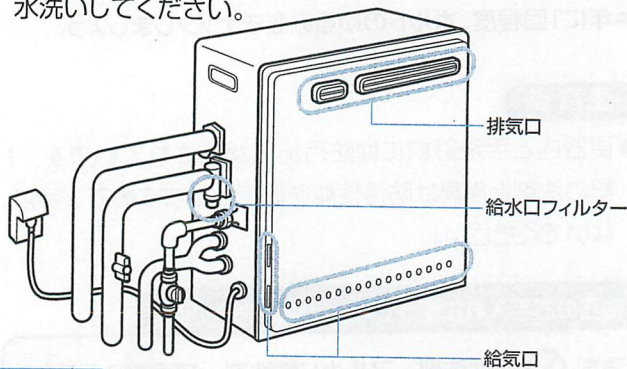
注意点

- プラスチック素材ですから、トイレ用洗剤、溶剤、ナイロントワシなどは使わないでください。
- 暖房便座に水や汚水をかけると湿気による故障の原因になります。
- 市販の便座用お掃除ティッシュ類を使用する場合は注意書きをよく読んでからご使用ください。

設備

給湯器

- 吸気口や排気口のホコリやススはブラシなどでよく払い落とします。
- 浴槽のアダプターについているフィルターはこまめに掃除してください。
- 本体の汚れは水拭きした後、水気を拭き取ってください。汚れがひどい時は中性洗剤を使いましょう。
- 本体の給水口フィルターは歯ブラシなどで月に1回程度水洗いしてください。



注意点

- 給湯器のまわりで揮発性の薬品などを扱わないでください。
- 排気口の近くに危険物、植木、ペットなどを近づけないようにしましょう。
- 凍結予防のための水抜きは、取扱説明書を読んで正しく操作してください。
- 石油給湯器の場合は、オイルタンク内の水抜きを月に1回程度行ってください。

電気温水器

- 月に1～2度はタンクの掃除をしましょう。
 - ① 排水栓（数ヶ所ある場合は1ヶ所あたり1～2分ずつ）を開き、排水します。
 - ② 排水が濁らなくなったら、排水栓を確実に閉めます。濁っている場合は数回繰り返してください。
- 排水時に熱湯が出ることがあるので注意してください。

浴室換気乾燥機・浴室換気暖房機

- 入浴後は換気運転を3時間以上行いましょう。（浴室の広さ、季節によって異なります）
- 月に1回ほど、フィルターのホコリを掃除機で吸い取ります。
- 汚れがひどい時は、フィルターを薄めた中性洗剤液に浸し、

軽く洗って乾かします。熱湯で洗うと変形することがあるので注意してください。

- お手入れは機械が確実に停止してから行ってください。
- 必ず手袋をはめて、足元にも注意してください。

コンセント・スイッチプレート

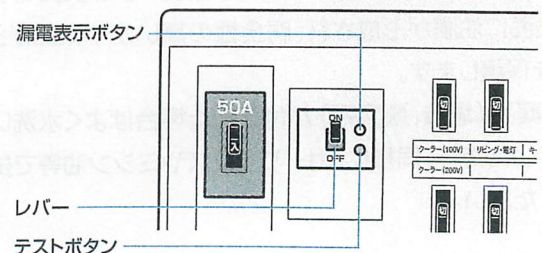
- ホコリを払い、ときどき乾拭きします。
- 手垢などが目立つ時は、必ずプレートを外した上で、住居用洗剤（弱アルカリ性）を薄めた液を固く絞った布で拭き取り、その後洗剤分をよく拭き取り、乾拭きします。

注意点

- シンナーなどの揮発性の溶剤を使用すると、変質・変色の原因になります。
- コンセントやスイッチに水をかけたり、ピンなどの金属類を差し込むことは、危険ですので絶対にやめてください。

分電盤（漏電遮断器）

- ときどき乾拭きしてください。
- 月に1回、点検しましょう。点検中は家中の電気がオフになるのでご注意ください。
 - ① テストボタン（赤色※機種によっては灰色）を押すと漏電表示ボタン（黄色）が飛び出し、レバーが落ちて電気が切れたら正常に作動しています。
 - ② 漏電表示ボタンを押し、レバーを上げると電気が流れます。



照明器具

- 掃除の時は必ず電源を切り、ランプやガラスの熱が冷めてから行ってください。
- ランプやカバーは乾拭きしたり、ハタキでホコリを払います。汚れがひどい時は中性洗剤を含ませた布で拭きます。

- カバーの取り外し方は器具により異なるので取扱説明書をご覧ください。
- 交換するランプは器具指定のタイプを選びましょう。

インターホン

- やわらかい布で乾拭きし、汚れがひどい時は薄めの中性洗剤を含ませた布で拭きます。

注意点

- ベンジン、シンナーなどの溶剤は使わないでください。
- 親機の裏面には交流100Vが入力されています。感電の原因になりますので機器本体を取り外さないでください。
- 玄関子機は防雨仕様になっていますが、打ち水など、直接水をかけないでください。

床暖房

- 掃除機をかけ、乾拭きをしてください。
- 汚れがひどい時は水で少し濡らし、固く絞った布で拭き取ります。

注意点

- ピアノなどの重量物はあて板を脚に敷いてください。
- スプレー缶などを床の上に置くと、爆発や火災の原因になります。
- 床に釘を打ったり、刃物を刺したりしないでください。
- 電気床暖房の場合は、水で濡れたらすぐに拭き取ってください。感電や漏電、変色などの原因になります。

外部建具

玄関ドア

- 木製ドアは、固く絞った布で拭いた後、乾拭きします。月に1～2回は専用クリーナーでお手入れしましょう。
- 鋼製ドアは、水またはぬるま湯を絞ったやわらかい布で拭いてください。ひどい汚れは中性洗剤を薄めた液を使って拭き、洗剤分と水分をよく拭き取っておきましょう。

注意点

- タワシやクレンザー、ほうきは使わないでください。
- 自動車用ワックスや化学布、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使うと、変色・変質の原因になります。

シャッター

- ふだんは乾拭きします。落ちにくい汚れは住居用洗剤を溶かした液を使って拭いた後、必ず水拭きと乾拭きで仕上げてください。

サッシ全般

- 窓枠(サッシ)は乾拭きします。落ちにくい汚れは中性洗剤をつけた布で拭き、水拭きと乾拭きで仕上げます。
- 風雨の強い時(風速20m以上)などは、雨水が浸入して内装を濡らすことがあります。シミにならないよう、すぐに拭き取りましょう。
- 海岸に近い地域では、台風の後、水拭きや水洗いをして塩分を取り除きましょう。

注意点

- ヒビ割れたガラスは少々衝撃でも破損する恐れがあります。思わぬケガを防ぐためにも取り替えましょう。
- 網入りガラスにフィルムを貼ったり、カーテンやブラインド、家具、小物類を密着させると、熱割れの原因になります。
- 窓の近くに暖房器具を置くと、熱でガラスがゆがんだり、熱割れを起こすことがあります。
- アルカリ性、酸性の洗剤や溶剤は変色の原因になります。

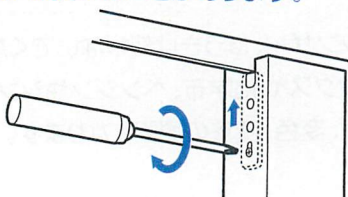
引違いサッシ

- レールに溜まった砂や小石などで戸車が破損することがあります。サッシ用ブラシやハケでこまめに掃き出しま

しょう。ちなみに、グレー色のサッシのレール部分の黒ずみはサビ等の腐食ではなく、砂や小石でこすれた跡というケースが多いのです。

注意点

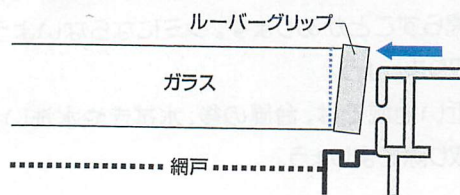
- 外れ止めは、危険防止のため必ずセットしてください。
- 防犯用ロックをかけたままサッシを開けないでください。ボタン類が破損することがあります。



ジャロジー

注意点

- ガラスを押さえつけるような掃除の仕方はガラスを割る危険性があります。
- ハンドルに無理な力を加えると、ハンドルを固定するネジがゆるむことがあります。
- 開閉が重い時は、ルーバークリップ（ガラスを差し込んでいる両端のツメ）が開いていることがあります。指で押し戻して、枠と並行になるように調整してください。



両上げ下げサッシ

注意点

- 両サイドに内蔵されているバランサーの寿命は6～8年（1日3回の開閉）です。
- 開閉が急に重くなったり、自然に下がるようになったら、サッシを閉めて施錠し、管理会社にご連絡ください。

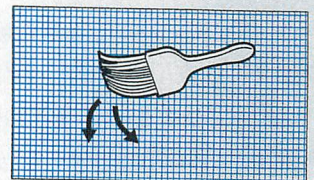
網戸

- 網がたるまないように、手ぼうきなどでやさしくホコリを払います。

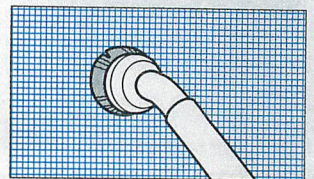
- 掃除機を使用する場合は、ブラシパーツをつけるか、片面に新聞紙を貼り付け反対側から吸い取ります。
- 汚れがひどい時は、住居用洗剤を薄めた液をスポンジか布につけて、網目に沿って両側から均等の力でこすり洗いをします。
- 丸洗いする場合は、平らな場所にネットの貼ってある側を下にして寝かせ、スポンジや網戸ブラシで水をかけながら軽くこすり洗いをします。

網戸の清掃

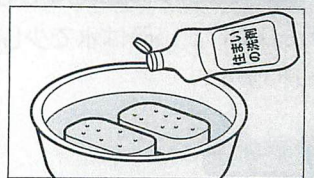
- 1 網がたるまないよう、手ぼうきでやさしくホコリを払います。



- 2 掃除機にブラシパーツをつけ、ホコリを吸い取ります。専用パーツがない場合は、片面に新聞紙を貼りつけて反対側から掃除機で吸い取ります。



- 3 住居用洗剤を薄めた液にスポンジを浸します。

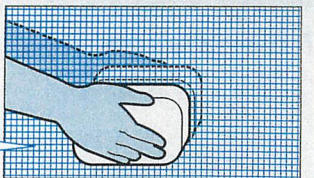


- 4 絞ったスポンジで網戸の両面を同時にはさみ、網目に沿って上下左右をこすり洗います。網戸に均等の力がかかるよう、2人で行うとよいでしょう。



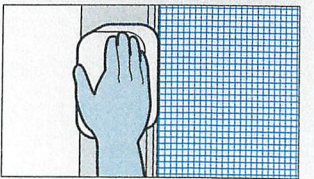
2人作業で

- 5 1人で行う場合は片方のスポンジで網戸を押さえ、もう一方のスポンジで軽く叩くようにして汚れを落します。

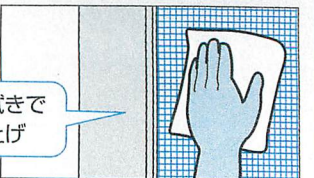


軽く叩く

- 6 サッシ部分（枠）はホコリを払った後、洗剤液を含ませたスポンジ（または布）で汚れを落します。



- 7 最後に全体を水拭きして仕上げます。



水拭きで仕上げ

外回り

バルコニー

- 床面の掃除はこまめに行いましょう。ゴミや砂などは溝に落とさず、掃除機やちり取りで取り除いてください。
- 排水溝やドレンのゴミや落ち葉に気付いたらすぐに取り除きましょう。放っておくと水があふれ出し、室内側に水が回ることがあります。
- 頑固な汚れはスポンジなどに中性洗剤をつけてこすった後、水拭きし、水分を拭き取っておきましょう。

注意点

- 植木鉢などを置くときは受け皿を敷き、床に土がたまらないようにしましょう。
- 肥料が床にこぼれないようにしてください。床の変色等の原因になります。
- 手すりの上にお子様に乗って遊ぶと危険です。足がかりになるようなものを近くに置かないようにご注意ください。
- 手すりや床面に防虫剤や殺虫剤がかかると変色・変質の原因になります。かかったらすぐ水洗いしてください。
- 物置きや洗濯機などの重量物はバルコニーのバランスを不安定にし、落下の危険もあるので置かないでください。

フラワーボックス

注意点

- ホコリや土はサビの原因になります。こまめに取り除きましょう。
- 植木鉢などを置くときは受け皿を敷き、土や肥料がこぼれないようにしましょう。
- 防虫剤や殺虫剤がかかると変色・変質の原因になります。かかったらすぐ水洗いしてください。
- 安全のため絶対に上がらないでください。また、エアコンの室外機を設置しないでください。強度が足りません。
- 屋上フラワーボックスは建物の構造体を利用しています。直接土を入れると構造体を傷めるので、プランターを利用してください。
- 強い衝撃を与えないでください。床材が割れる恐れがあります。

外階段・外廊下

- 廊下床板や階段段板の土、コケなどは水をかけ、デッキブラシやタワシで掃除してください。
- 手すりや柱の汚れが目立つときは、水で絞った布で拭き、後で乾拭きします。洗剤、タワシは使用しないでください。
- 海岸に近い地域では、年に1～2回、塩分を落とすため水洗いしましょう。

注意点

- 排水溝やドレンのゴミや落ち葉に気付いたらすぐに取り除きましょう。放っておくと廊下に水がたまり、コケやカビが発生して表面が滑りやすくなります。
- 廊下には踏み台になるようなものを置かないでください。お子様が手すりに上がると大変危険です。
- 重量物を引きずると表面のノンスリップ・コーティング材にキズがつくことがあります。

第3章

防災・防犯対策

地震、台風、火災などの自然災害には、日頃から万全の対策を立てておきましょう。住む人を守るための住まいは、自然の猛威や過酷な天候にさらされます。そうした事態をある程度想定し、住まいの耐久性は高められてきました。とはいえ、自然災害の被害を最小限に食い止める手立ては、住む人が日頃から備えを万全にしておくこと。また、災害の発生と同時に何をすべきかを知っておくことです。そのためにもこの章必ずお読みいただき、ご家族みんなで対策を話し合ってください。

1. 防災対策

〈防災施設〉

●避難通路・避難階段

共用廊下や階段は、火災時や災害時に室内の煙や炎を避けて避難できる設備ですので、この場所に物を置いたりしないでください。

●防火ドア

各住戸の玄関扉は、火災時に煙と炎を遮断する防火ドアとなっています。常に閉めた状態にしておいてください。

●消火器（設置建物のみ）

居住者による初期消火のために共用部に設置されています。火災時にすぐ使用できるように設置位置と使用方法を確認してください。

●非常ベル・非常警報器（設置建物のみ）

非常時に居住者や周辺住民に非常事態を知らせます。非常時にすぐ使用できるように設置位置と使用方法を確認してください。

●屋内消火栓（設置建物のみ）

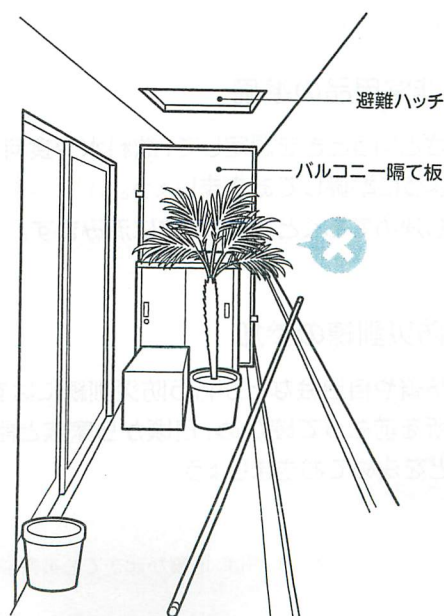
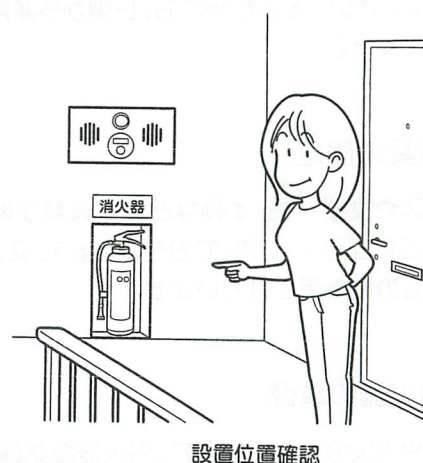
居住者による初期消火のための設備です。火災時にすぐ使用できるように設置位置と使用方法を確認してください。

●バルコニー隔て板（設置建物のみ）

バルコニーの隣の住戸との間に設置してある隔て板は、非常時に壊して隣の住戸に避難する設備ですので、この周辺には物を置かないでください。

●避難ハッチ（設置建物のみ）

バルコニーの床（天井）に設置してあるハッチは、非常時に下の階へ避難することができる設備ですので、この上や下には物を置かないでください。



〈地震発生時〉

●まず火の始末を

地震で心配なのは2次災害、つまり火災や転倒・落下物などによるけがなどです。グラツときたら、あわてず落ち着いて対処することがもっとも大切です。そして“火の始末”を。コンセントを抜き、近くのドアや窓も開けてください。



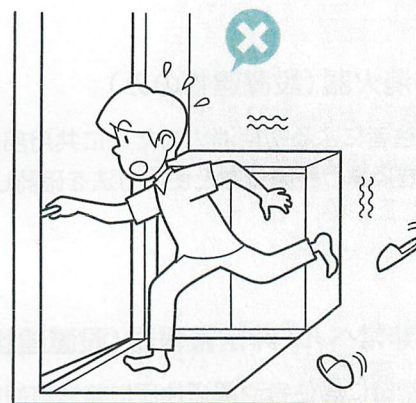
まず火を消すこと

●あわてて外に飛び出さない

ほとんどの地震の場合、揺れは1分間程度で収まります。あわてて外に飛び出すのはかえって危険です。テーブルの下などに身を伏せて、とにかく落ち着いて行動してください。

●避難は非常階段で

地震や火災が発生したときは、エレベーターが設置されている建物では、危険防止のためエレベーターは使用禁止になります。避難のときは非常階段を利用してください。そのためにも、日頃から非常階段の位置や開け方などを確認しておいてください。



あわてて飛び出さない

●家具の固定

タンスや食器戸棚、本棚などの家具類が転倒しないように留め金などで壁や天井の芯材部分に固定しておきましょう。又、内装にキズを付けないで転倒を防止するものも市販されています。

●消火器の準備

地震や火災の発生に備えて、消火器の準備とその使い方を確認しておきましょう。又、反射的にガスの元栓を閉められるように、普段から習慣づけておきましょう。

●非常用品の準備

いざというときを想定して、飲料水や食料、救急医療品などをいつでも持ち出せるように準備しておきましょう。(P.34参照) 又、家族で役割分担や連絡方法なども決めておくと、あわてずに済みます。



これで安心

●防災訓練の参加

消防署や自治会などが行う防災訓練にはすすんで参加しましょう。又、広域避難場所を前もって確かめ、日頃から家族と話し合い、避難方法や待ち合わせ場所などを決めておきましょう。

※普段からの備えがあれば、地震が起きても被害や混乱を最小限に食い止めることができます。

〈火災時〉

●近所の火災

消防活動などの適切な処置が行われていれば、近所の火事による延焼の恐れは少ないです。そのためにも、万一近所の火災に気付いたら、大声で周りに知らせるとともに、一刻も早く119番に連絡してください。又、バルコニーの洗濯物などに飛び火しないように注意をしてください。

●上下階の火災

放水による水の被害を受けることも考えられます。しかし、身の安全が第一ですから、日頃から逃げ道を確認しておき、あわてず冷静に避難してください。そのためにも、バルコニーや共用廊下などの避難通路には物を置かずに、整理整頓をしておいてください。

●防火訓練の参加

消防署や自治会などが行う防火訓練には積極的に参加し、いざというときにはお互い協力できるようにしておきたいものです。



防火訓練は積極的に！

〈台風時〉

●すき間の総点検

部屋の出入り口は必ず閉めて、すき間をガムテープで押さえ、特にアルミサッシの敷居やエアコンの孔、換気口はボロ布や新聞紙を集めて風雨の吹き込みを防ぎましょう。又、台風時や強風時のドアの開閉には十分注意をしてください。風の力でドアが思わぬスピードで開閉し、けがやドアの破損につながります。

●バルコニーの排水口の掃除

排水口が詰まると雨水があふれて室内に浸水したり、階下への被害が出ます。台風時前後は掃除をして流れを良くしておいてください。

●ガラスの破損に注意

窓ガラスが強風や飛んできた小石などで破損すると危険ですから、ガムテープなどを×印に貼って保護しましょう。又、バルコニーに置いてあるものや植木鉢などが飛ぶと危険ですから、室内に入れてください。



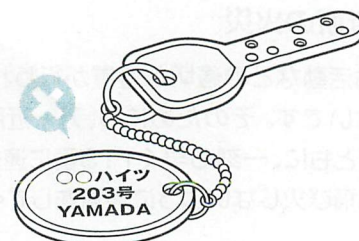
バルコニーに置いてあるものは室内に

2. 防犯対策

過去、居住者相互の協力で犯罪を未然に防いだ事例がたくさんあります。普段からお互いのコミュニケーションを大切にしておくことは、犯罪防止にたいへん役立ちます。

● 鍵の取り扱いは慎重に

外出時に郵便受けなどに鍵を入れるのは無謀です、又、鍵に住所・氏名・部屋番号などが入った札を付けるのも避けてください。紛失した場合、犯罪に利用されるかもしれません。



鍵に名前を入れると危険

● ドアチェーンを忘れずに

在宅中でも玄関ドアには必ずドアチェーンをかけて施錠してください。ドアチェーン越しの応対は、決して失礼にはなりません。面倒でもご家族全員の約束事にしてください。特に、お子様が一人で留守番せざるを得ないときには、十分に注意してください。



● ひと声かけて

家族全員で外出するときは、両隣にひと声かけて出かけるようにしましょう。そのためにも普段からのお付き合いが大きくものをいいます。

● 洗濯物は室内に取り込んで

帰宅が遅くなるときは、屋外に干しておいた洗濯物は室内に取り込んでから出かけてください。遅くまで洗濯物が外にぶら下がっていたのでは“留守中”の告知も同然です。

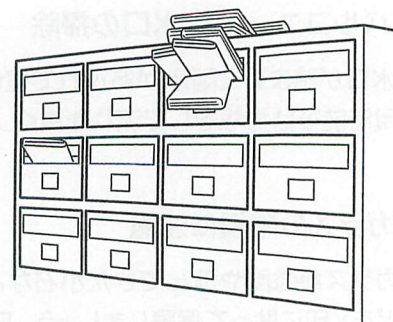
● 長期不在の場合は

不在が長期間にわたる場合、新聞や牛乳などの配達物はあらかじめ販売店に連絡して、その期間配達を中止してもらいましょう。

長期不在が分かってしまう! (X)

● お子様は目の届くところで

幼稚園や小学校低学年のお子様は、必ず大人の目が届くところで遊ばせてください。近くに遊び場がある場合でも、親同士が交代で監視することも、犯罪やけがから未然に子供を守ることになります。



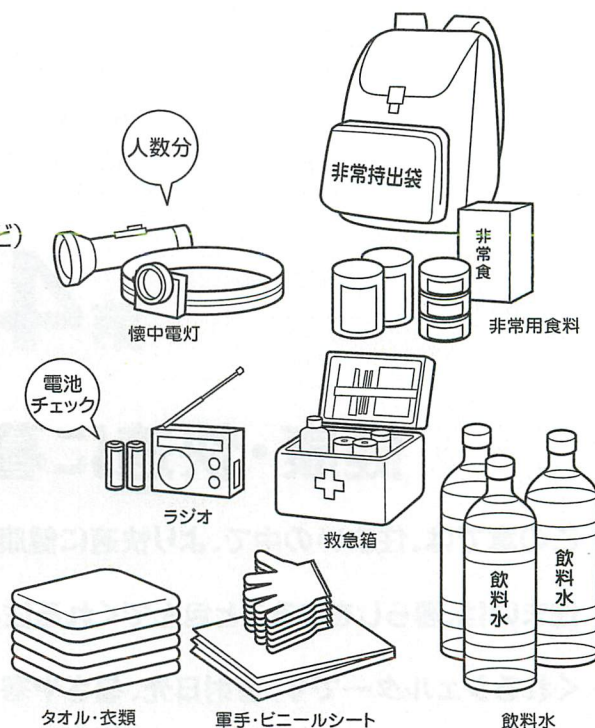
● セキュリティ装置などの設置

玄関やサッシに補助錠や防犯カメラなどのセキュリティ装置を設置したい時には、必ず事前に管理会社または建物オーナーに相談してください。退去する時の機器の取扱い、原状回復の費用負担などについて確認が必要となります。

column コラム

災害時のために備えておきたい非常用品

- 非常用食糧（乾パン、缶詰、インスタント食品など）
- 救急箱（包帯、ガーゼ、消毒薬、日頃服用している薬など）
- ライター、マッチ、ロウソク、携帯コンロなど
- 飲料水（2～3日分）
- 懐中電灯（できれば家族の人数分）
- トランジスタラジオ（電池をチェックしておきましょう）
- 衣類（下着、靴下、タオル、防寒着など）
- 軍手、ビニールシートなど



※食料や備品などはあらかじめリュックに詰め、すぐに持ち出せる場所に保管しておきましょう。

※貴重品もすぐに持ち出せるところに。

※赤ちゃんがいる場合は、ミルク、ベビー用品。

column コラム

悪質訪問販売について

個別訪問や電話などによる悪質販売に注意しましょう。

●点検方法

「点検に来た」などといって、実際は消火器などを販売する商法です。個人に消火器の設置の義務があると偽ったり、消防署から来たと嘘をつくケースも見られます。

●新聞勧誘

強引な購読契約の勧誘には、はっきりとした対応が大切です。やむを得ず契約させられてしまっても、訪問販売法の規定で、クーリングオフ制度によって契約から8日以内なら解約が可能です。

第4章

健康・快適に暮らすために

この章では、住まいの中で、より快適に健康に過ごすための知識をご紹介します。

住まいは、暮らしをまるごと包んでくれる住みかであり、不快な環境からも守ってくれるシェルターです。直射日光、暑さや寒さ、雨、風などから住む人を守る性能を備えています。一方、住む人も、住まいのせっかくの性能を維持するには、暮らし方の工夫が必要です。湿気や害虫の対処、音や明るさ、長い目で見た環境問題への配慮など…。病気のもとになる原因は排除し、ご家族にいつも健康で快適な毎日を過ごしていただくためにも、ぜひご一読ください。

1. 空気の汚れについて

安全で快適なはずの住まいも、化学物質や一酸化炭素、ダニ・カビなどによる空気の汚れが原因で、目・鼻・のどの痛みやアレルギーなどの健康障害を引き起こすことがあります。高気密な住まいほど、換気の役割が大切になっています。

ホルムアルデヒド対策

◆刺激臭のない家具を選ぶ

合板や家具などの接着剤に含まれるホルムアルデヒドは、揮発性の化学物質で、その水溶液がホルマリンです。空気中のホルムアルデヒド濃度が一定水準を超えると、人によっては目がチカチカしたり、鼻やのどが痛んだり、頭痛を覚えることもあります。ミサワホームの住まいにはホルムアルデヒド対策を施した壁クロス用接着剤や木質建材が使われていますが、市販の家具などを選ぶ際にも注意が必要です。例えば、洋服ダンスや食器棚などは、扉を開けて臭いをチェックしましょう。刺激臭のあるものはホルムアルデヒドの濃度が高いので、避けた方が安全です。



◆換気でホルムアルデヒドを軽減

すでにホルムアルデヒドを放出する家具などが家の中にあり、捨てることのできない場合は、換気を心がけることがいちばんの軽減方法です。一般的には2～3年で、ホルムアルデヒドの放出量は気にならないほどの低濃度になります。

一酸化炭素の対策

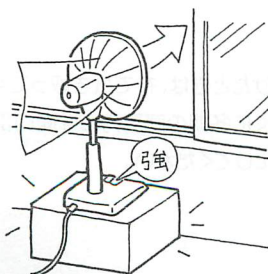
◆開放型のストーブを置かない

暖房器具は、開放型と密閉型に分けることができます。開放型は石油やガスのファンヒーターやストーブなど、燃焼の際に生じるガスを室内にそのまま排気するタイプ。密閉型はエアコン、電気ストーブや、排気ガスをパイプや煙突などで外へ逃がすタイプのストーブです。開放型の暖房器具から出る排気ガス中には、ガス中毒の原因となる一酸化炭素や有害な窒素酸化物のほか、ダニ・カビ・結露の原因となる水蒸気が多量に含まれ、室内の空気を汚す原因となります。竣工後に暖房器具を選ぶ場合は、開放型の器具は避け、安全でクリーンな器具を選ぶようにしましょう。また、ご使用にあたってはそれぞれの器具の取扱説明書に従ってください。



◆調理中は必ず換気扇を回す

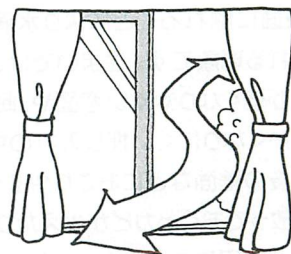
ガス調理器具の使用中は、室内の酸素が消費されると同時に、有害な一酸化炭素や水蒸気が発生します。必ず換気扇を回すようにしましょう。



二酸化炭素と水蒸気の対策

◆こまめに窓を開けましょう

人は酸素を吸って二酸化炭素を吐いています。比較的安全性が高いと思われる二酸化炭素でも、濃度が濃くなると、頭がぼーっとしたり、気分が悪くなることがあります。換気扇を使用したり、こまめに窓を開けて汚れた空気を外に出し、新鮮な空気と入れ換えるようにしましょう。



◆浴室の換気も忘れずに

入浴や洗濯は大量の水蒸気が発生するため、結露や、湿気を好むダニ・カビの原因となります。入浴後や洗濯物を室内で乾燥させるときは、窓を開けるか、換気扇を回しましょう。

その他の有害物質

◆スプレーやタバコも十分な換気を

殺虫剤やトイレ洗剤、揮発性の溶剤など家庭で日常的に使われているものにも有害成分が含まれています。また、タバコにはニコチンやタールなどの有害物質が含まれ、壁や天井などを汚す原因にもなっています。これらを使用した場合は通常より多くの換気が必要です。

column コラム

扇風機を換気扇に

扇風機を換気扇として利用してみたいかでしょうか。まず、窓辺にしっかりした台を置き、そこへ扇風機をのせ、首を固定して屋外に向けてセットします。スイッチを「強」に入れたら、煙や臭いを短時間で外へ追い出してしまいます。

ハウスダストとアレルギー

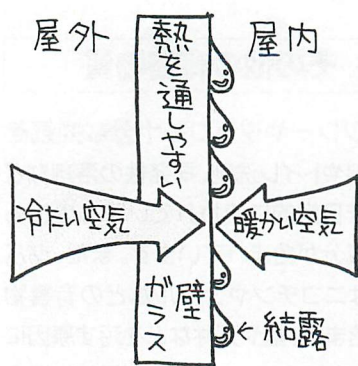
土ボコリ、綿ボコリ、食品クズ、花粉、ダニの死骸やフンなど、室内にはさまざまなハウスダストがあります。とくに問題となるのが、スギやヒノキの花粉、ダニのフンなどのアレルギー物質です。ハウスダストには空気清浄機と室内のこまめな掃除が有効です。

2. 湿気と結露について

断熱性能と換気システムを備えた住まいを提供しておりますが、住まい方によっては結露が発生することがあります。建物を傷め、心理的にも不快な結露を止めるには、室内の湿気をコントロールする工夫が大切です。

結露の生じる原因

◆空気中の水分が冷やされて水滴に
結露は日常生活でよく見かける現象です。例えば、よく冷えた水をグラスに注ぐと、グラスの外側に水滴がつき、曇ってきます。また、冬にバスや電車に乗ると、乗客が増えるにしたがって窓ガラスに水滴が付着し、外の景色が見えにくくなります。これらが結露によるものです。温かい空気に含まれる水分が、冷たいものの表面に触れることにより水滴となって現れる現象です。住まいでは、表面の温度が低くなりやすい窓面や、暖房しても暖かくなりにくい押し入れの中、タンスの後の壁面などにおこりやすく、そのまま放っておくとカビが生えたり建物を傷める原因にもなります。また、樹脂サッシやアルブラサッシの窓では、サッシ自体は結露にくいものの、気密性が向上する分、結露に対するいっそうの配慮が求められます。では、どのようにすれば結露を止められるのでしょうか。



水分の発生を抑える

◆洗濯物は屋外に干す

洗濯物が乾く時に放出される水分も結露の原因となるので、できるだけ屋外に干したいものです。乾燥機を使う場合や室内に干す場合は、換気扇を回したり窓を開けて水蒸気を屋外に放出してください。



◆加湿器を使いすぎない

加湿器からは水蒸気が出るので、市販の加湿器を使う場合は湿度の上がりすぎに注意しましょう。湿度は40～50%が理想的です。もし部屋の中の空気が乾燥しているように感じられたら、温度もチェックしてください。部屋の温度が高すぎると乾燥感があるので、適度に暖房を調整します。また、タバコの煙やホコリなどで空気が汚れている場合も乾燥を感じやすくなるので、窓を開けて新鮮な空気と入れ換えてください。



発生した水蒸気を外へ逃がす

◆浴室の換気は十分に

入浴は多量の水蒸気を発生させます。浴室の換気は十分に行いましょう。入浴後は浴槽にフタをして、浴室のドアをきちんと閉め、湿気を他の部屋に移さないようにしましょう。また、最後に入浴した人が必ず換気扇を回しましょう。

◆キッチンの換気

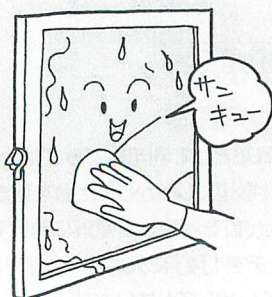
調理中には、炊事の鍋などから出る水蒸気のほか、ガスの燃焼によっても多量の水分が発生します。調理中には必ず換気するよう心がけてください。

◆晴れた日には窓を開ける

高気密・高断熱の家は窓を開けてはいけなわけではありません。爽やかに晴れた日には窓を開け、乾いた風を家のすみすみまで送りましょう。

◆押し入れや収納にすき間をつくる

押し入れの中は空気の対流が少なく、湿りやすいものです。ときどきは扉を開けて空気を入れ換えましょう。布団などはスノコに乗せたり、壁から少し離すなど、空気が流れやすいように配慮してください。同様に家具も壁から少し離し、空気の通り道をつくっておきます。ときどき扇風機で風を送るのもよい方法でしょう。



column コラム

結露を見つけたら

もし窓ガラスやサッシ、トイレのタンクや配管などに結露を見つけたときは、布で拭き取ってください。そのままにしておくと建物を傷めることがあります。とくに冬期の暖房時には開口部や内装材に結露が生じる場合があります。こまめに拭き取るようにしてください。

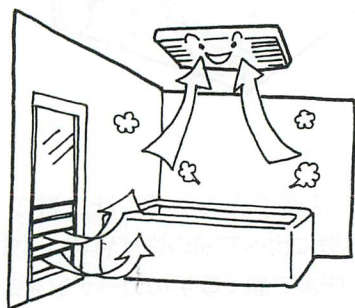
3. カビについて

カビは見た目に不快なばかりでなく、体質によっては気管支ぜんそくや鼻アレルギー、過敏性肺炎などの原因ともなり、健康にも悪い影響を及ぼします。

浴室のカビ対策

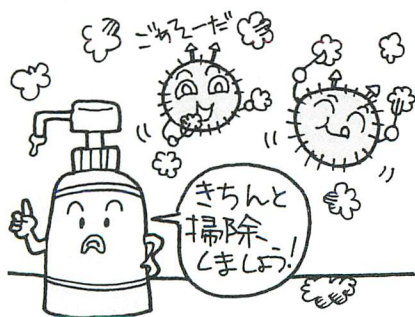
◆入浴後の換気と除湿

カビは湿気が多い所を好むので、最も被害を受けやすいのは浴室です。カビを防ぐには、湿気を除くことが第一。入浴後は必ず換気扇を回し、水蒸気を外に出しましょう。また、浴室換気乾燥機は、雨の日や梅雨時の洗濯物干しだけが仕事ではありません。最後に入浴した人は、浴室換気乾燥機で十分乾燥させておきましょう。



◆浴室は清潔に

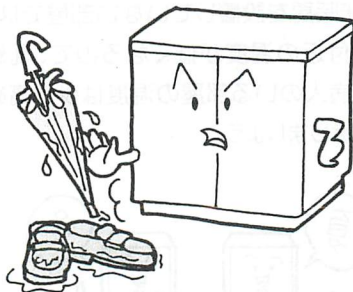
飛び散った石鹸の泡に含まれる人の垢などは、絶好のカビの栄養になります。換気と除湿に加え、掃除をきちんと行えば浴室の防カビは万全です。壁や床に飛び散った泡は、やはり最後に入浴した人がきれいに洗い流しておきましょう。



収納のカビ対策

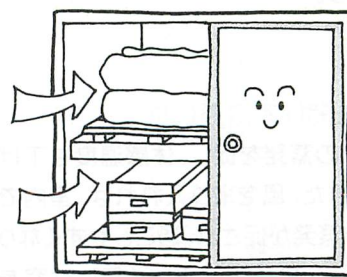
◆下駄箱にぬれた靴を入れない

下駄箱や玄関収納にぬれたままの靴や傘を入れたら、カビの原因になります。乾いてからしまうようにしましょう。梅雨時など湿気の多い時期は、ときどき収納の扉を開け、扇風機で風を送ると除湿に効果があります。



◆押し入れの除湿

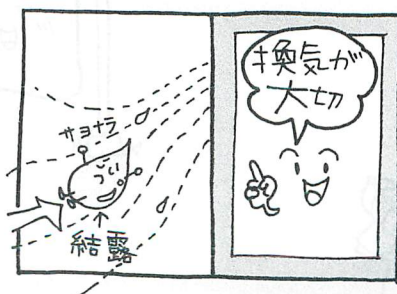
人が寝ている間にはコップ3杯もの汗をかくので、それを吸収した布団をしまう押し入れにはカビが発生しやすくなります。押し入れにはものを詰め込みすぎないようにし、時々風を通しましょう。また、床や壁にスノコを敷くのも効果的です。



column

カビと結露

カビが繁殖しやすいのは、エサと水分がある場所です。カビはすべての有機化合物をエサにしてしまうので、エサを絶つことは不可能です。例えば、住宅に使われる木材、ビニールクロス、合板、畳などの表面には有機化合物が含まれています。建材の表面についたゴミもエサになります。一方の水分は、表面がぬれるほどの量がなければカビは育ちません。家の中の壁や床がぬれるのは、ほとんどが結露によるものです。つまり、結露を防ぐことが最大のカビ対策になるわけです。



4. 暑さ寒さについて

体感温度は、気温だけでなく、湿度や風や日差しなどの総合作用で決まります。ちょっとした工夫で、室内を暑くもなく寒くもない、快適な環境に保つことができます。

暑さを防ぐ

◆ブラインドやカーテンで日差しを防ぐ

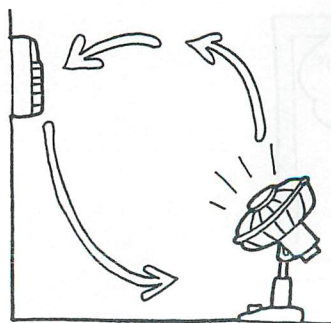
窓からさし込む夏の強い日差しは、家の中の暑さに大きく影響します。日のあたる床面の温度が上がり、さらに床からの輻射熱で天井や壁の温度が上がって部屋全体を温めるからです。とくに日が昇る東向きの部屋と、日が沈む西向きの部屋は、部屋の奥まで太陽が照りつけます。夏はこまめにブラインドやカーテンで日射を防ぐようにしましょう。

◆窓を開けて風通しを

風は汗の蒸発を促し、体感温度を下げます。また、風を取り入れれば、室内での汗の蒸発が促され、過ごしやすくなります。涼しいそよ風の吹く日には窓を開け、自然の風を取り入れましょう。気流の通り道になるドアや窓を開けると、風の通りがよくなります。換気扇を回して反対側の窓を開けても効果的です。外気の温度が下がる夜間にも、窓を開けて風通しをよくすれば、室内や建物の熱を冷ます効果があります。

◆エアコンに扇風機を併用

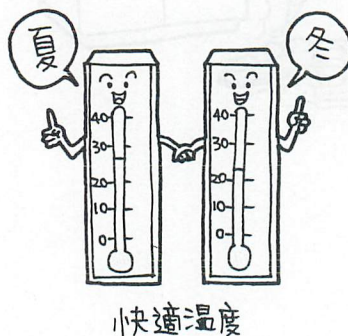
冷房には扇風機やシーリングファン(天井扇)を併用するのも効果的です。部屋の温度が均一になるだけでなく、空気が動くので体感温度が涼しく感じられます。



寒さを防ぐ

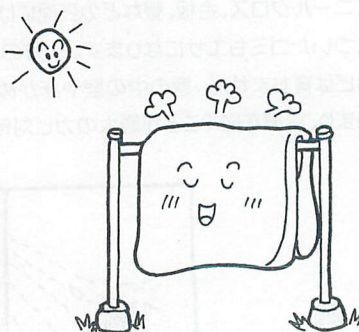
◆冬の快適温度

室内で快適に過ごすには、夏季は25℃～27℃、冬季は20℃～22℃の範囲が適当とされています。ただし、寒さの感覚は、服装や体の運動状態によっても大きく違ってきます。薄着で家事をしているときにちょうどよい温度でも、休んでいると寒くなることがあります。暖房器具の温度設定は、服装や運動状態に合わせて調節するとよいでしょう。また、床暖房を設置していない部屋では、床面付近の温度が低くなるので、乳幼児や病人のいる部屋の温度は少し高めに設定しましょう。



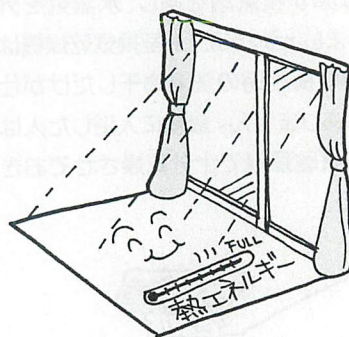
◆布団を乾かす

布団が湿っていると、体感温度がより寒く感じられます。布団は晴れた日に干すなどして、十分に乾燥させましょう。



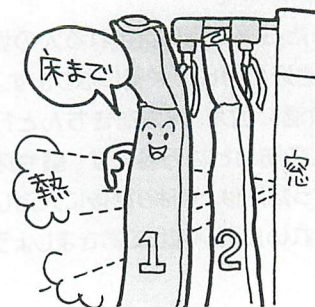
◆日差しを取り込む

日中はカーテンを開け、日差しを取り入れて、室内に自然の熱エネルギーをためておきましょう。



◆窓には厚手のカーテンを二重に

窓は外壁に比べて熱の逃げやすい部分です。床まで届く厚手のカーテンを二重に吊るしておけば、熱の損失が防げます。



[illegible]

